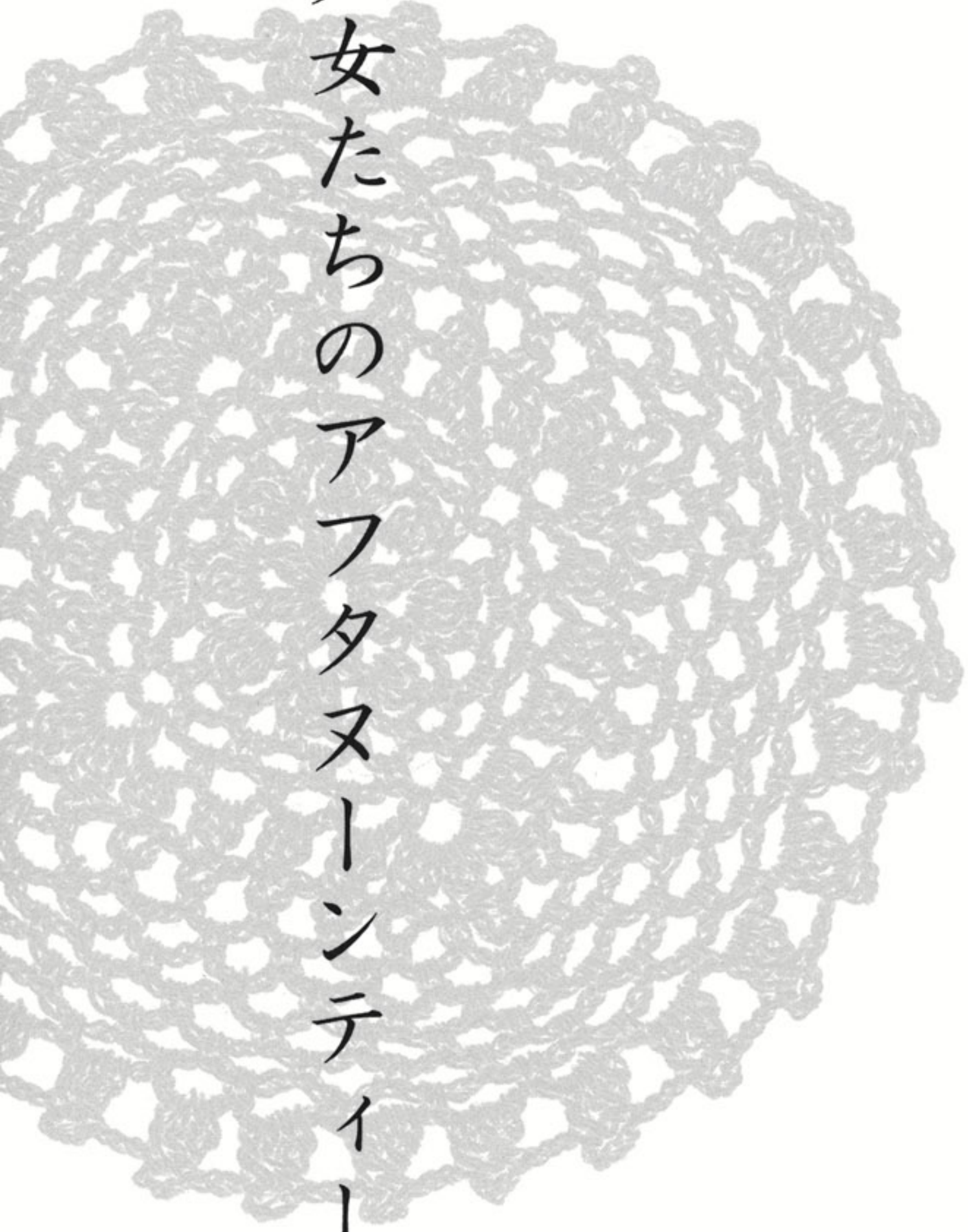




少女たちの
アフタヌーンティー

Girls Afternoon Tea

少女たちのアフタヌーンティー



目次

一 昨日珍しく、蓮子と私は喧嘩した。

二 いつか会えたら

三 落日

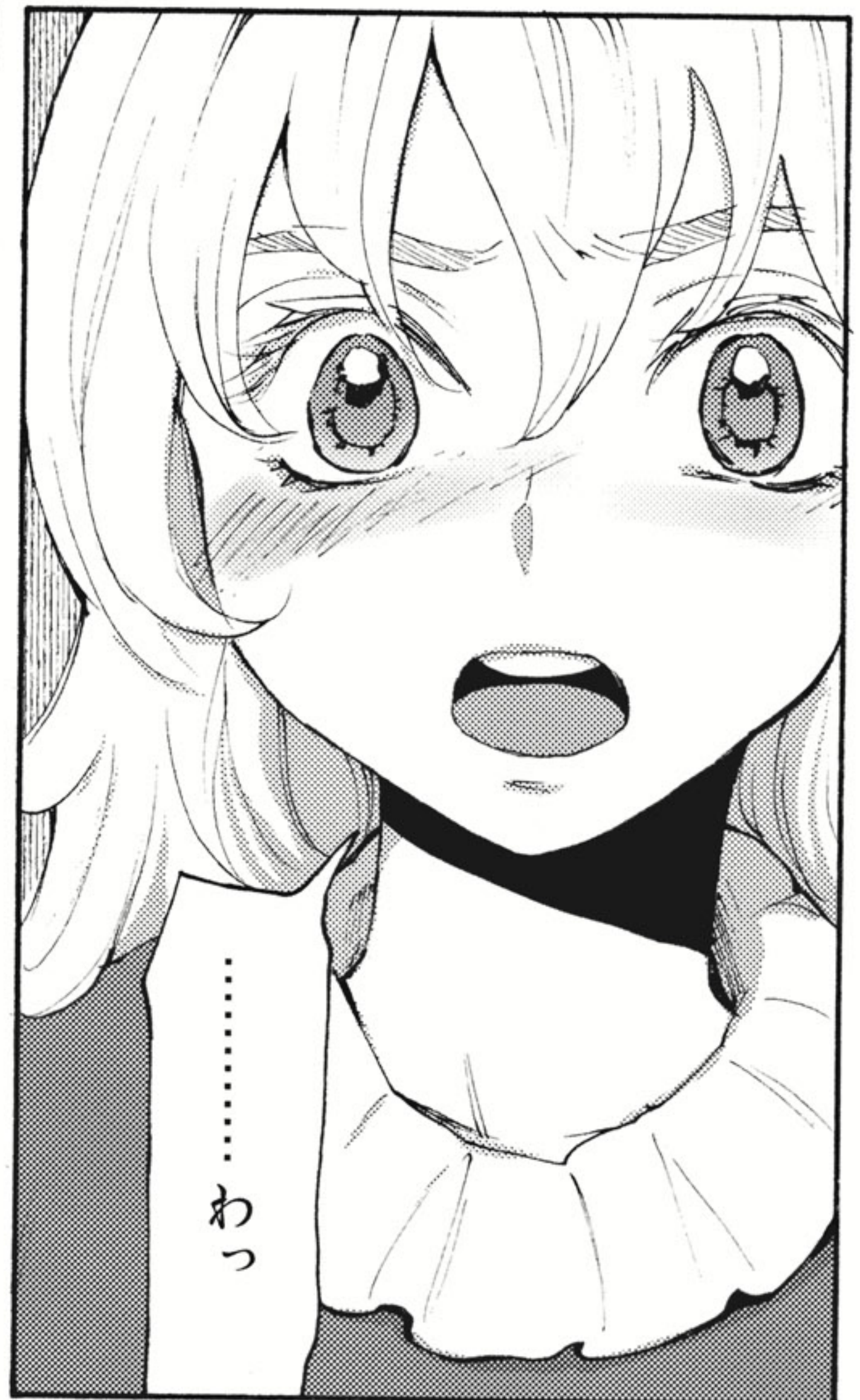
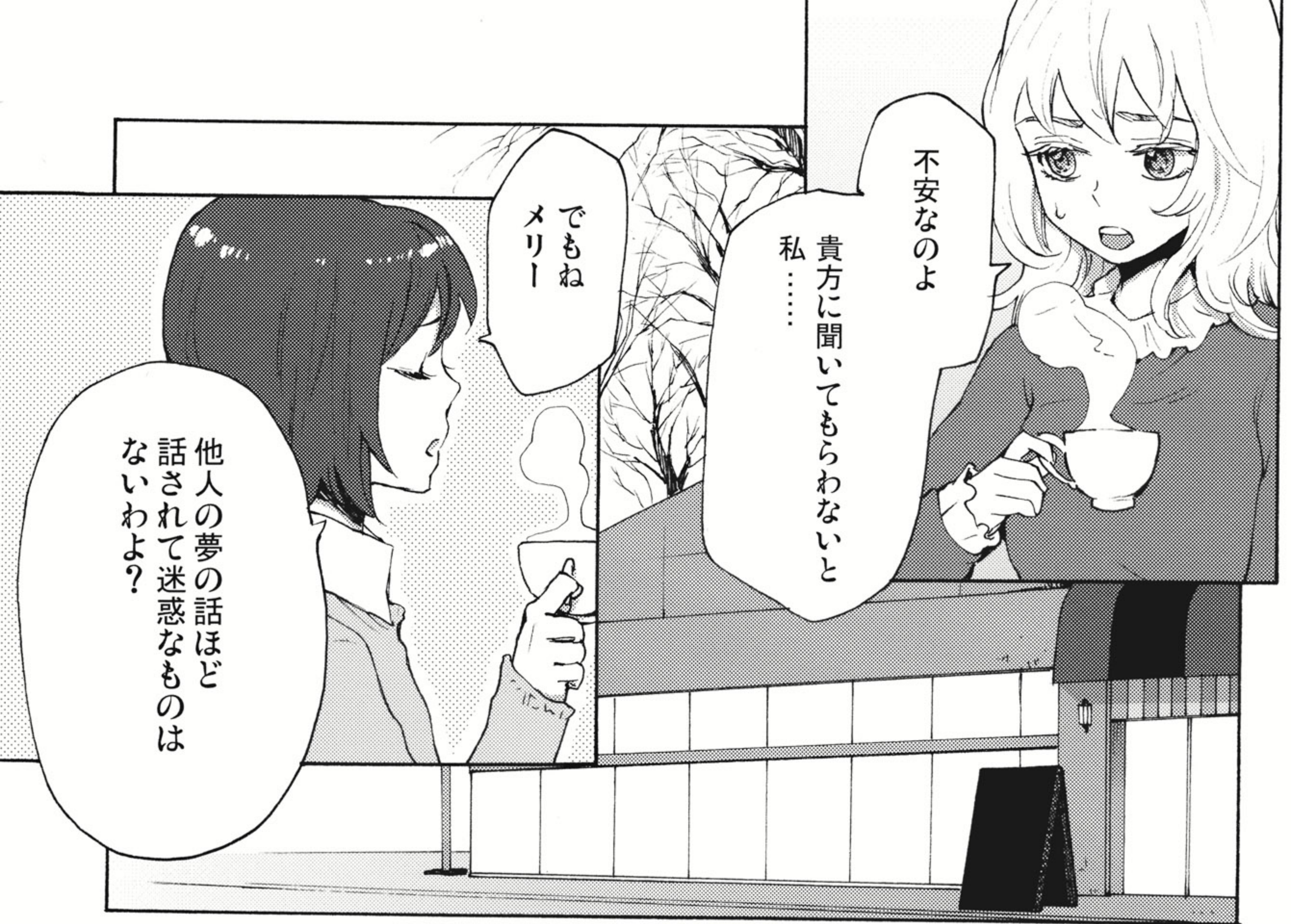
昨日珍しく、
蓮子と私は喧嘩した。



どこまでが夢で
どこからが現なのだろう

もう少し真面目に聞いて
くれてもいいじゃない！





私のこと
心配じゃないの？

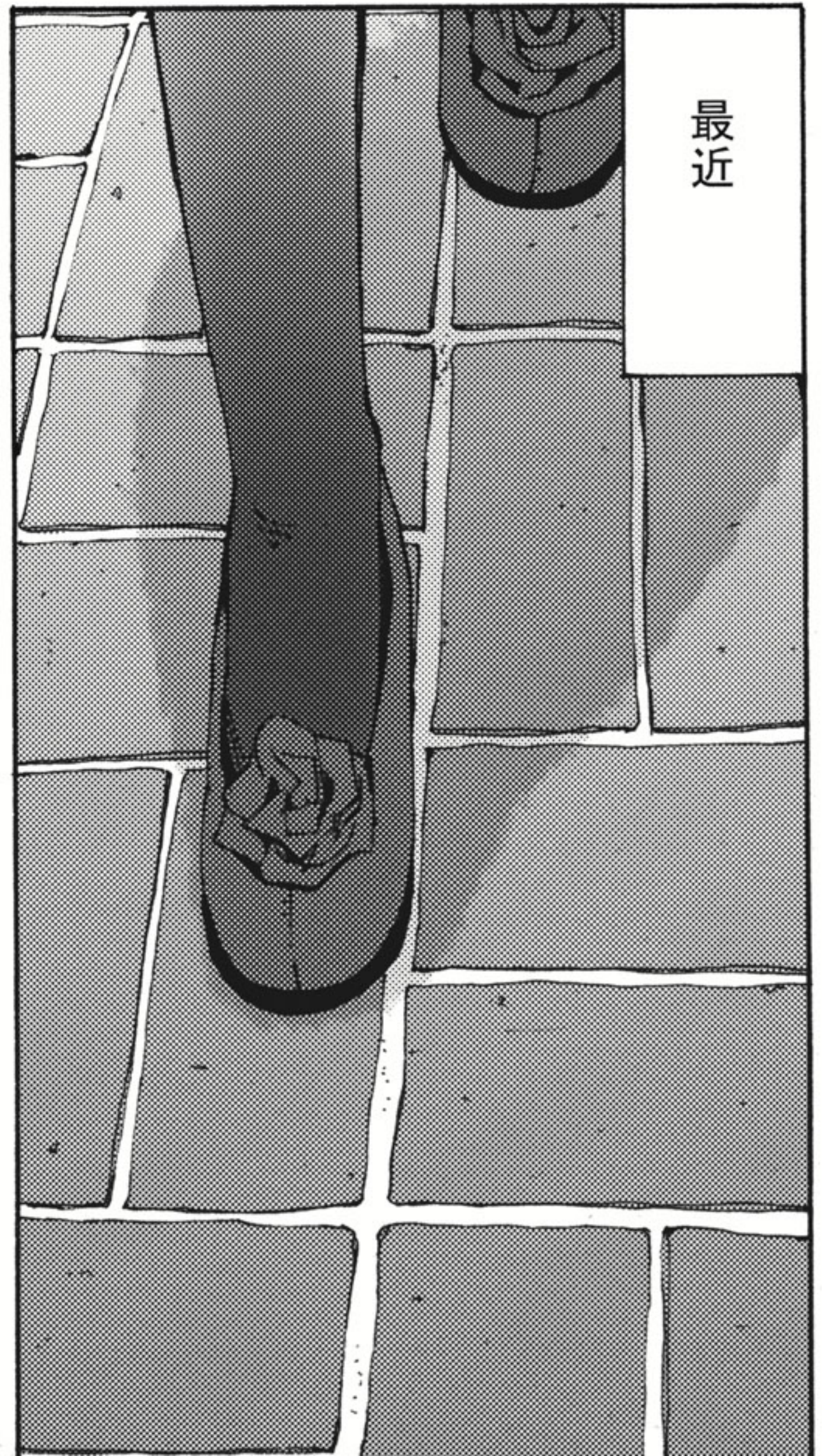


……だなんて

言えるわけ
ない

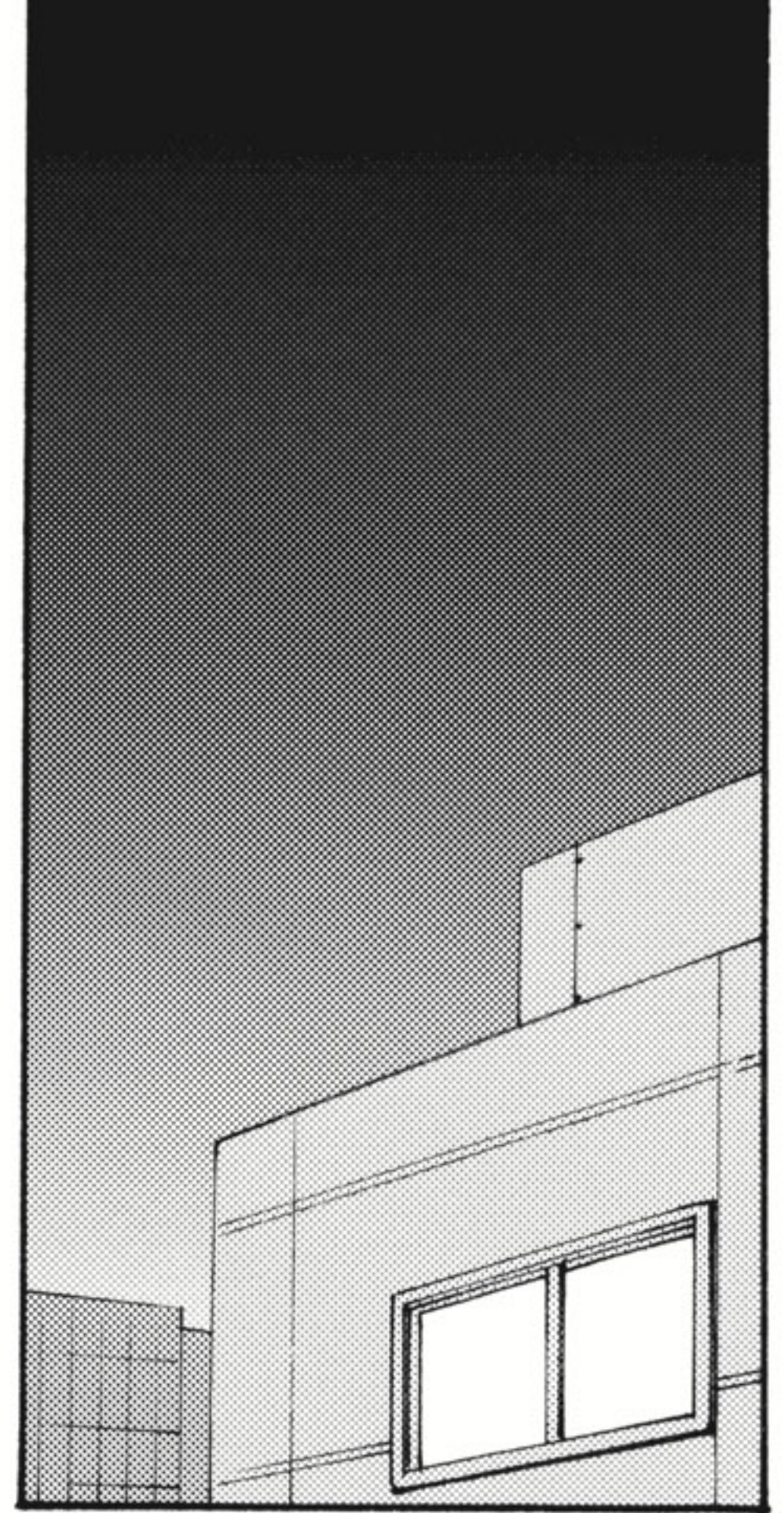
最近

夢を見る頻度が
増してきている



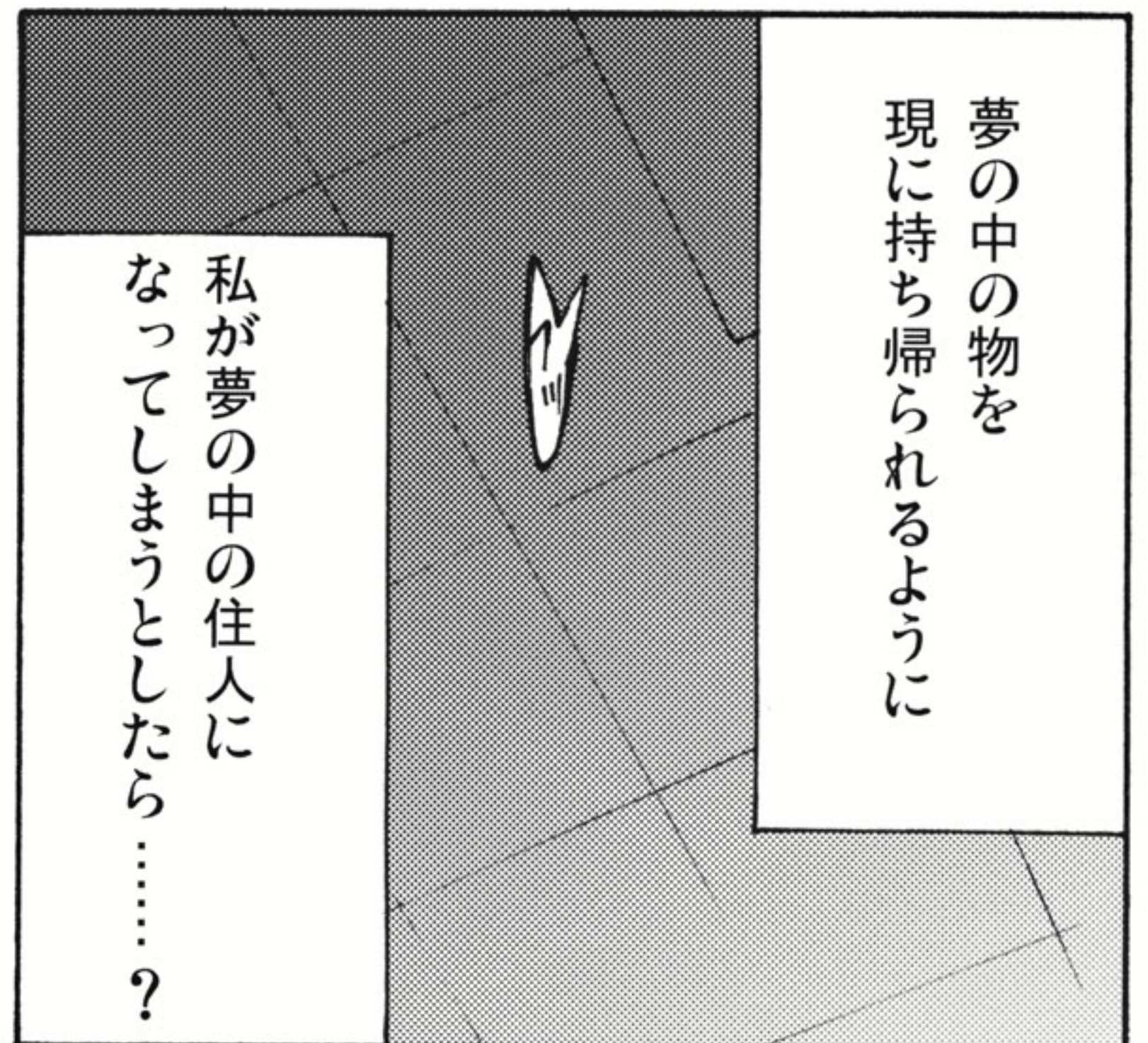


危険そうな生き物に
遭遇する夢も
何度か見た



それなのに
蓮子ときたら

蓮子ときたら！



夢の中の物を
現に持ち帰られるように

私が夢の中の住人に
なってしまうとしたら……？



他人の夢の話ほど
話されて迷惑なもの
はないわよ？



蓮子のバカ!

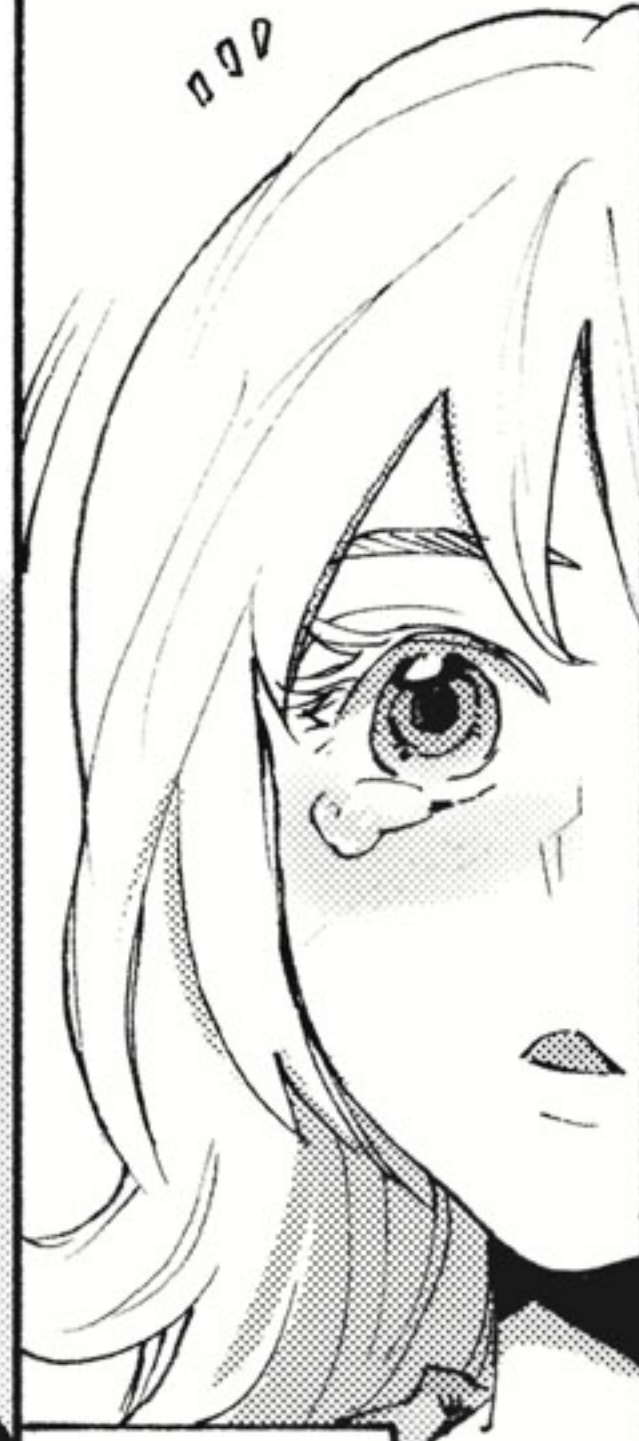


...え?

!!



私また……!?



……あれ

この真っ赤な
お屋敷……

あの一……

私これから
休憩なんだけど

よかったらお茶でも
飲んでいく?



泣いてるみたい
だし……

あっじゃあ その……

ご迷惑でなければ……

うん





おいしい

私の故郷では
有名なお茶なの



で
友達と喧嘩でも
したの？

え！

いや
叫んでたでしょう？
さっき



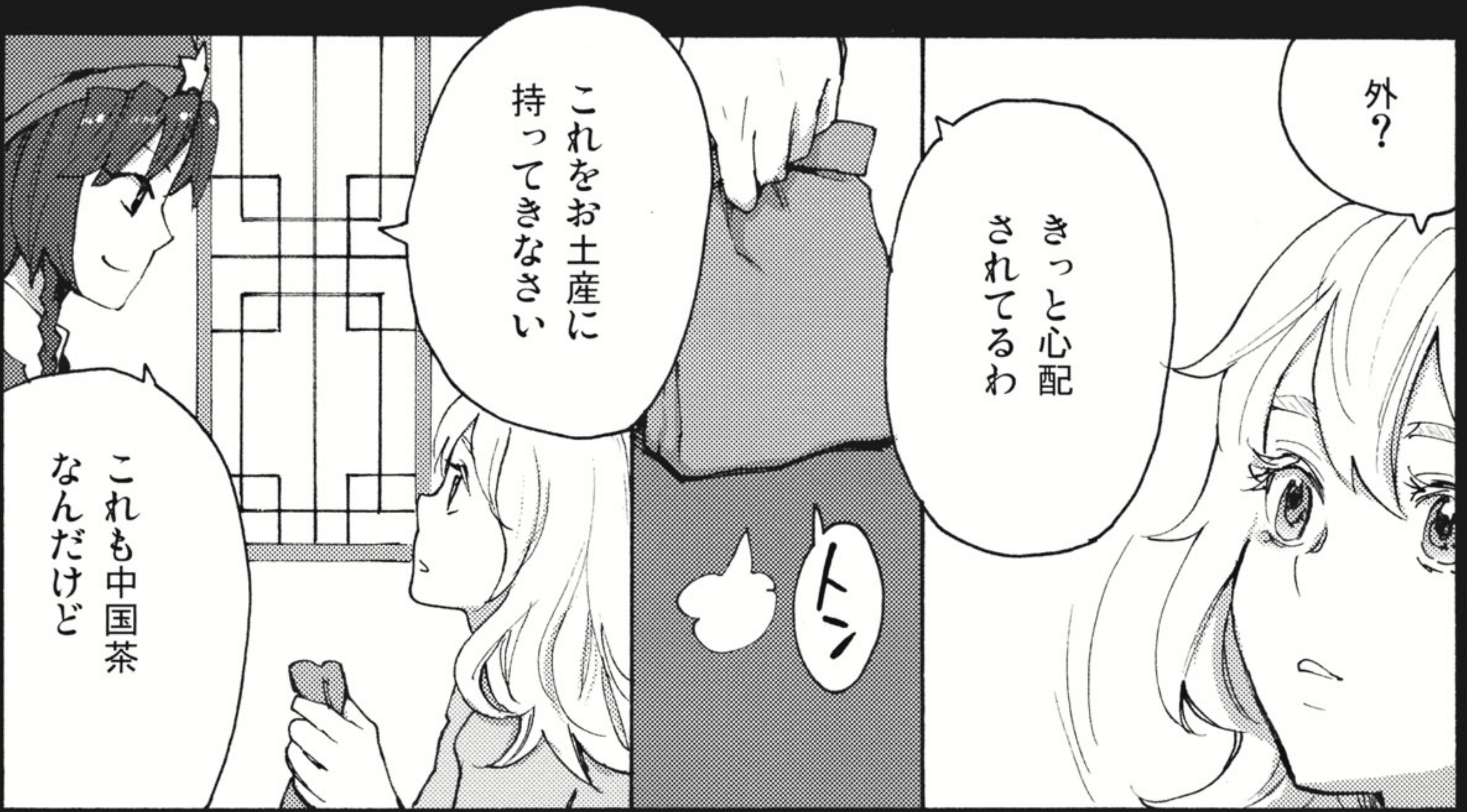
……はい

あなた外の
人間でしょう？



何で喧嘩してるかは
知らないけどさ

友達は大事に
しなきゃね



外？

きっと心配
されてるわ

これをお土産に
持ってきなさい

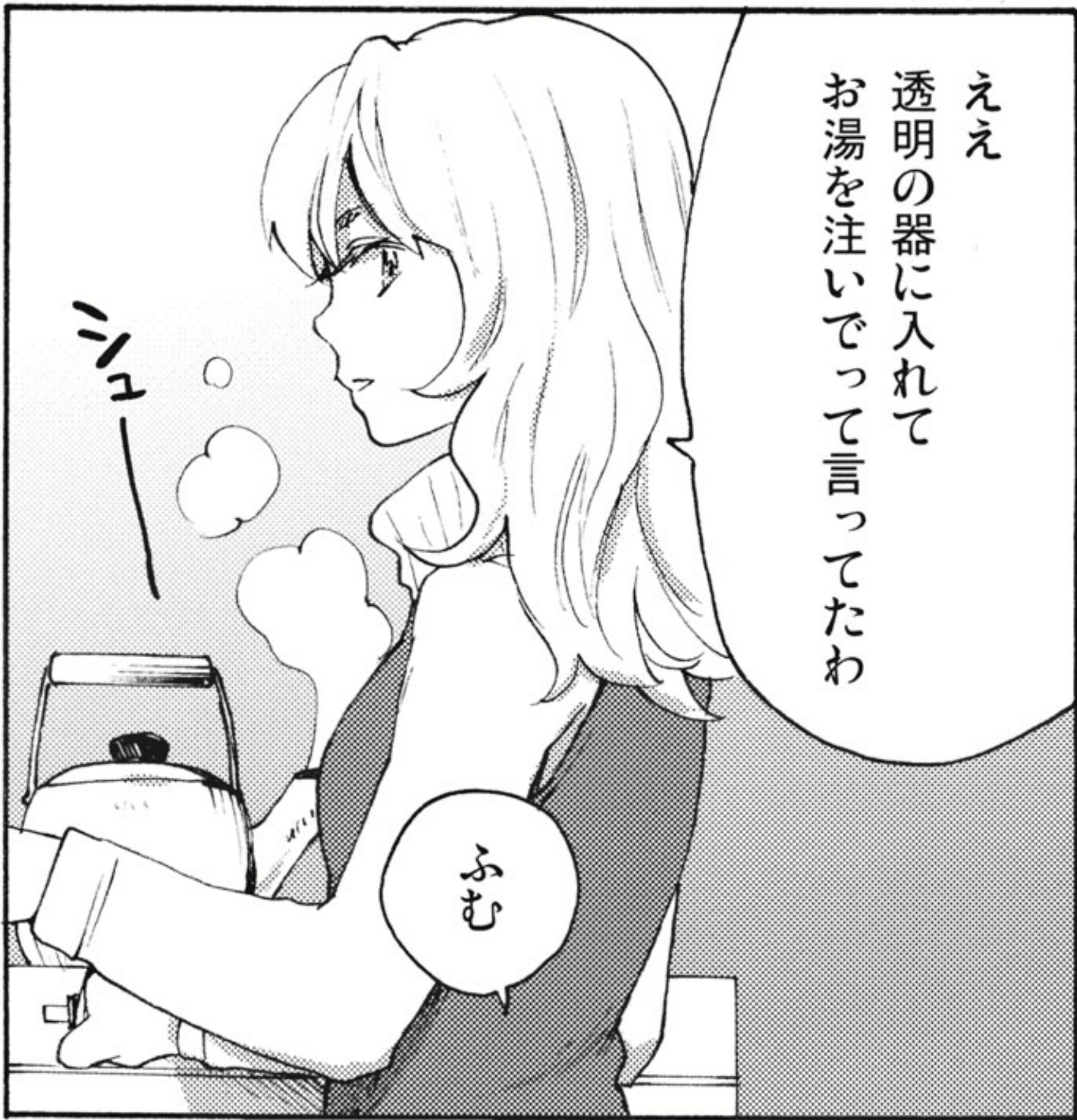
これも中国茶
なんだけど

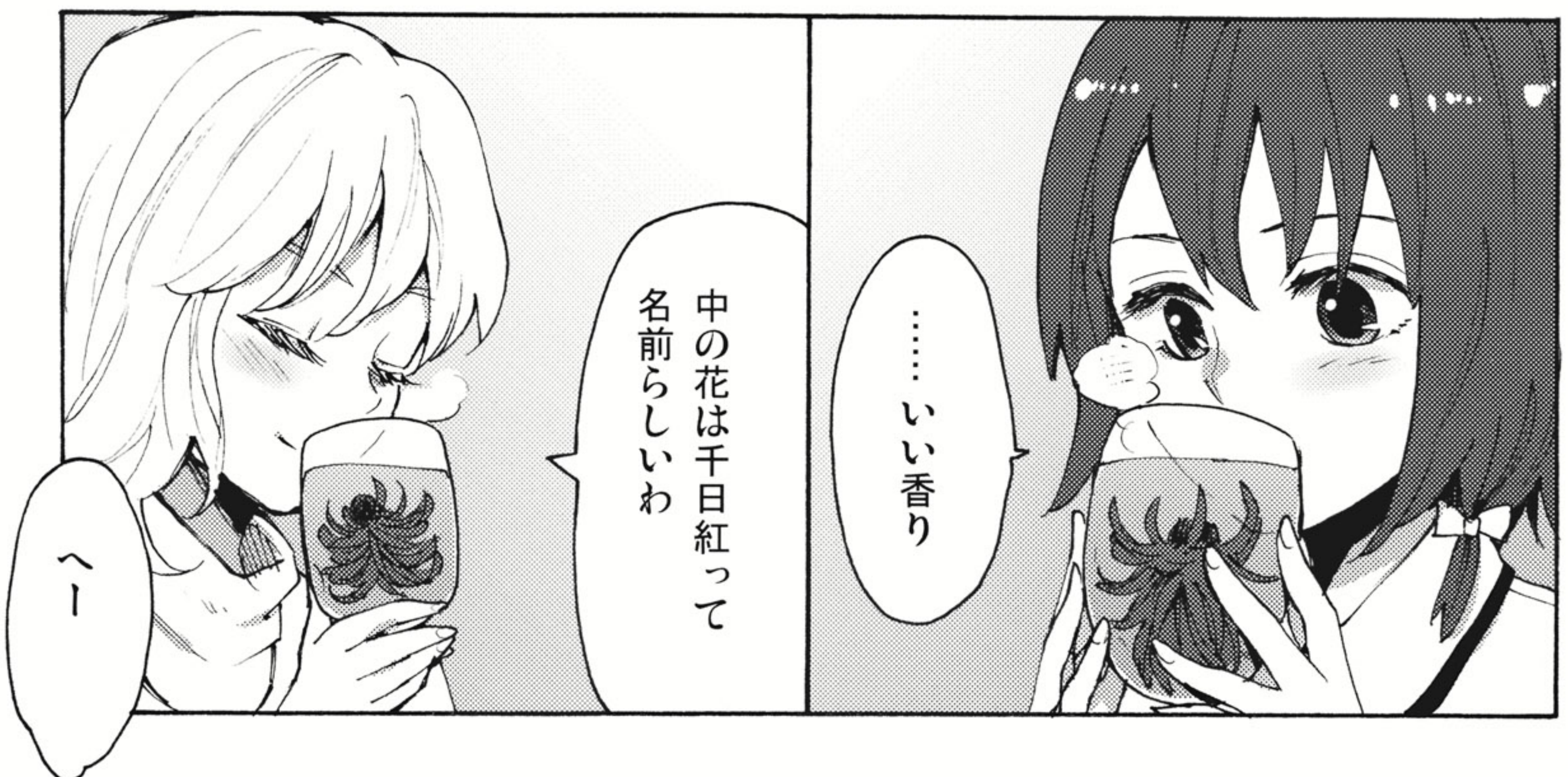
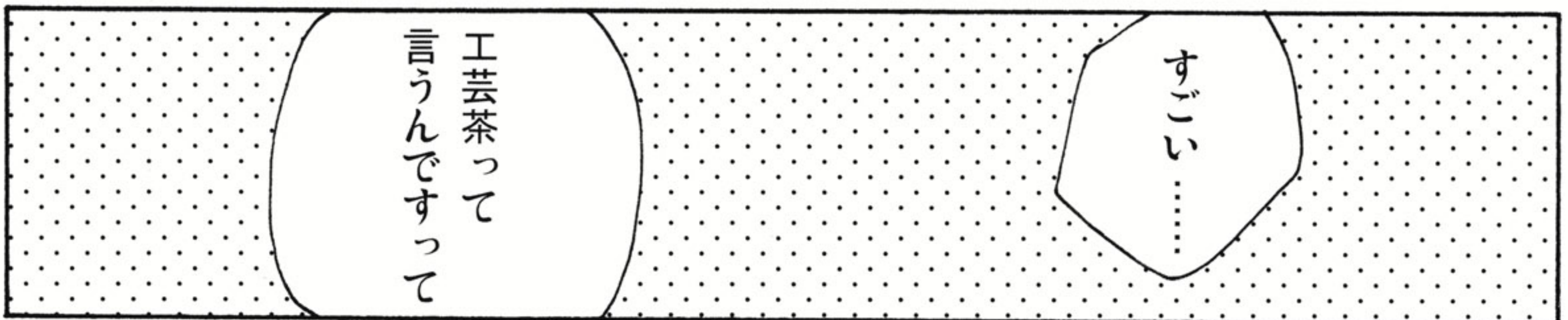


多分

今のあなたに
ぴったりだと思うわ

……それで





……謝らなきゃ

勝手に機嫌損ねて
一人で帰っちゃうなんて

蓮子 あの

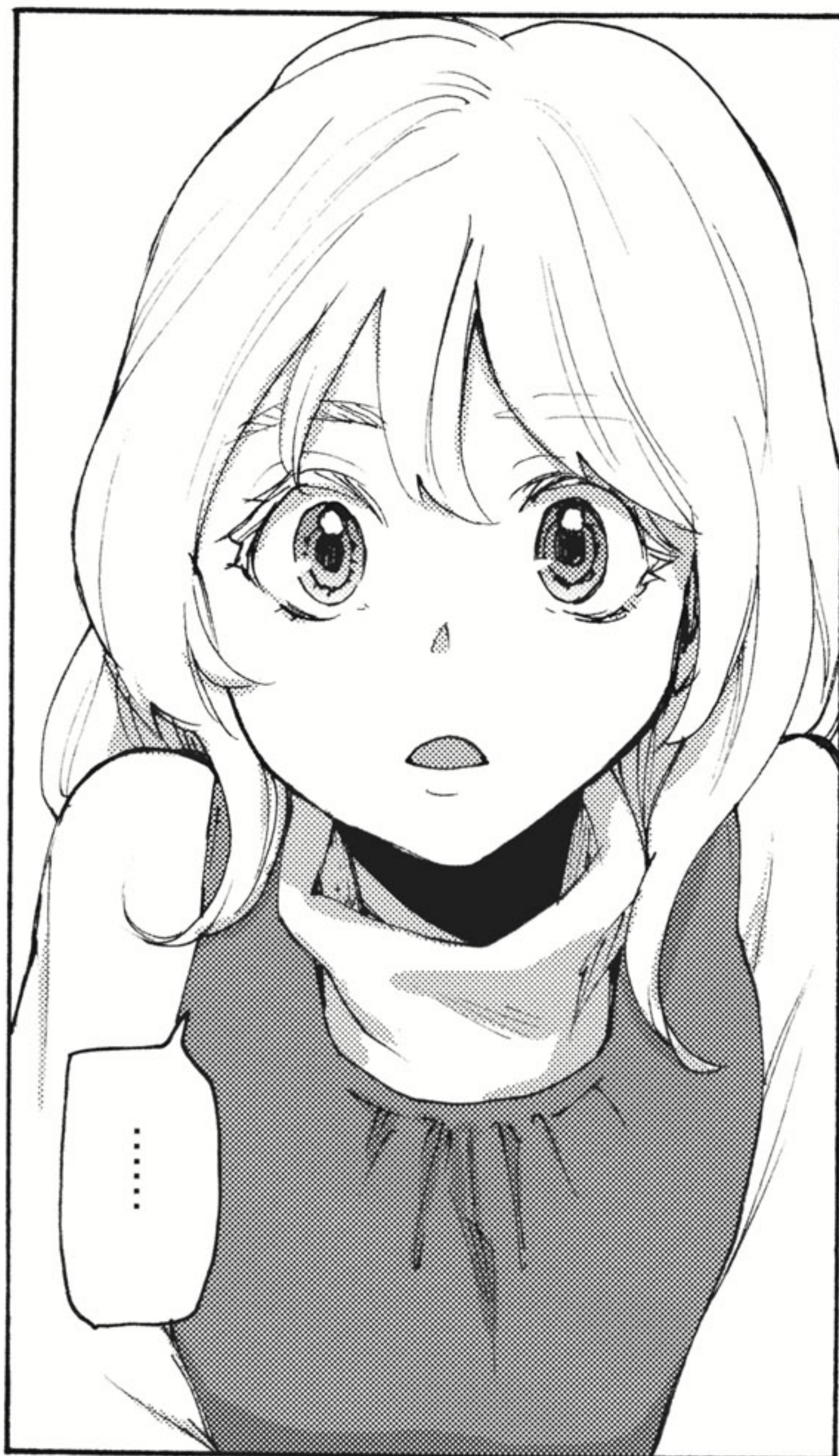
こないだの
ことだけど

きつと蓮子
怒ってる

ねえ
メリー

やっぱり怒って——

あっあのっ





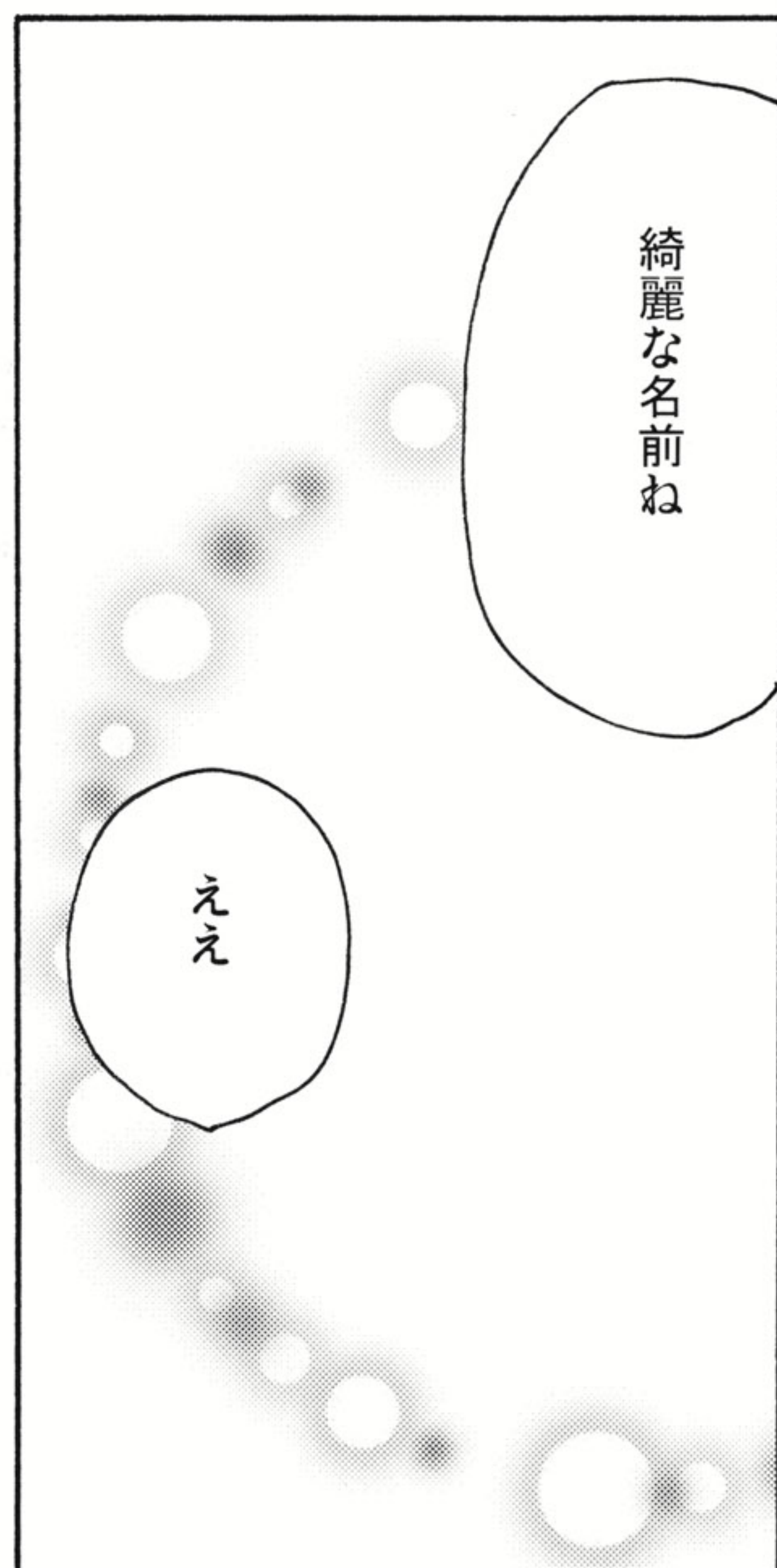
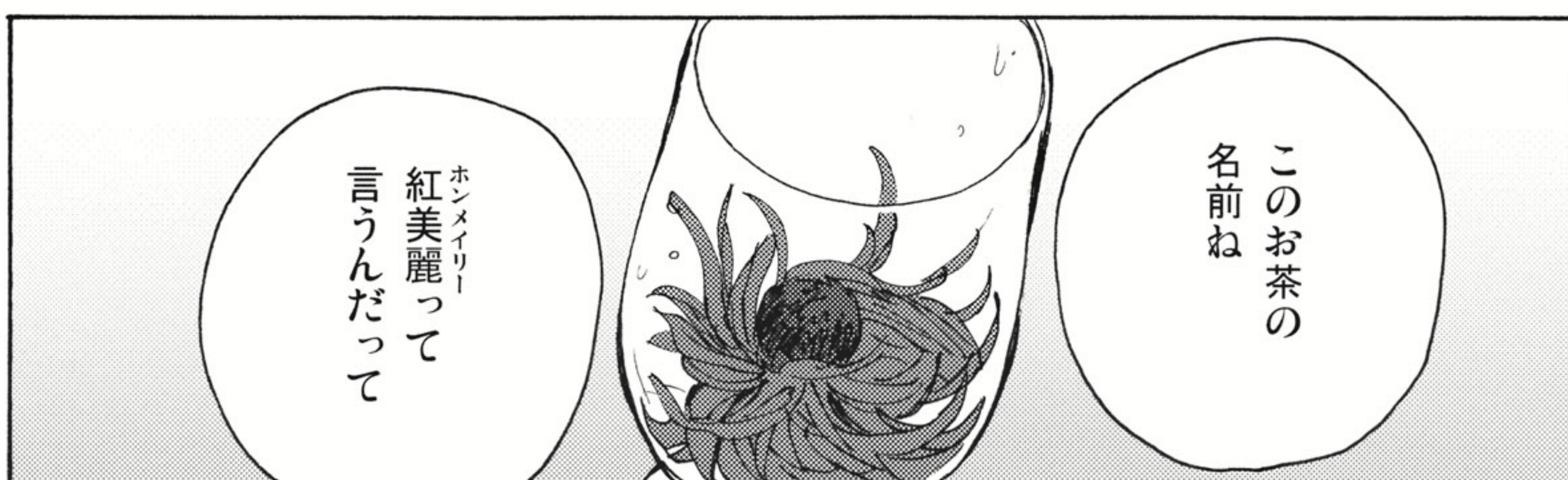
何で怒って帰ったか
ばれてたんだ!

恥ずかしいー!

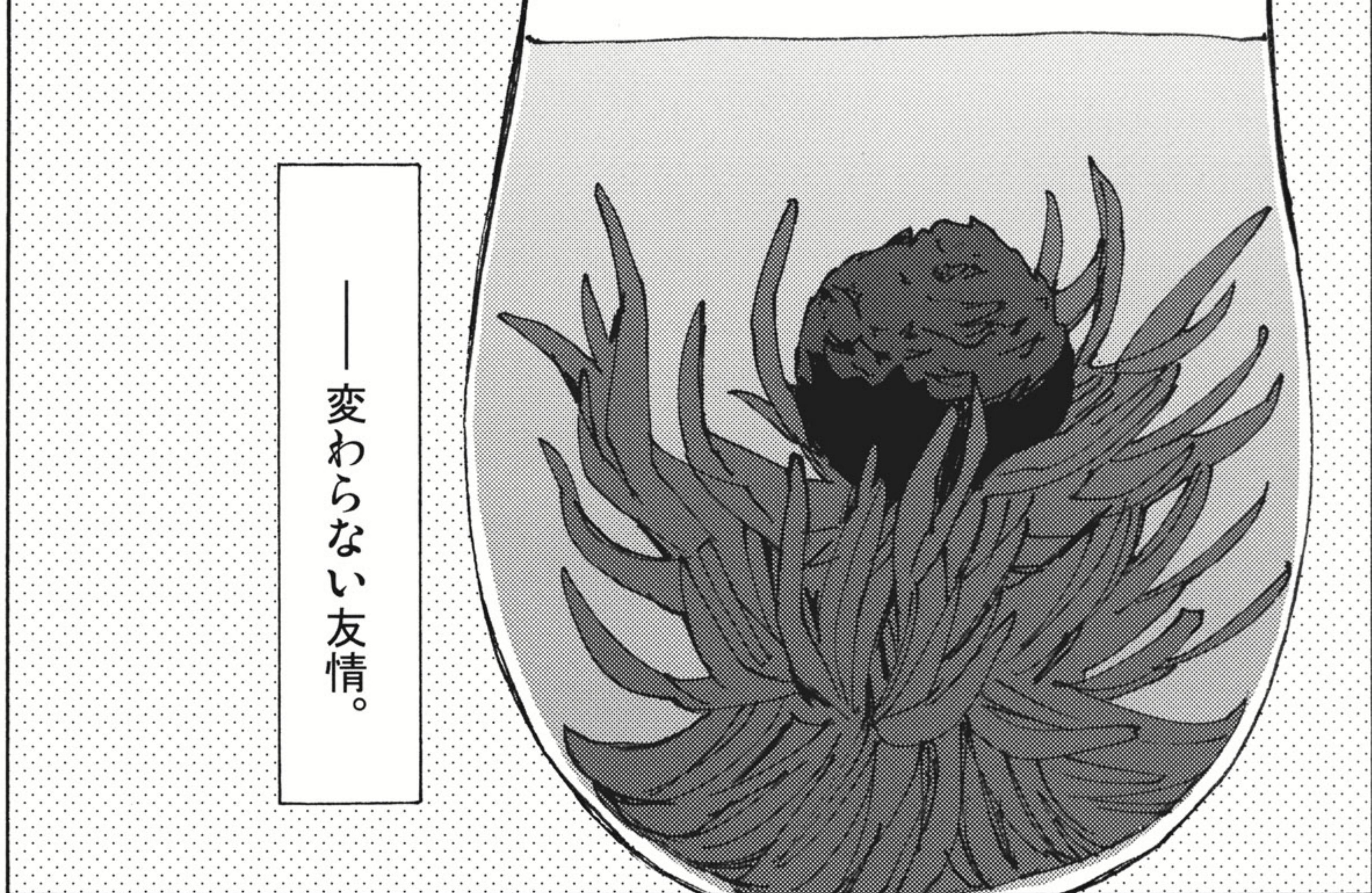


まったくメリーは
いつも一人で……

置いてかれる方の
身にもなってよね



そして 中の花
千日紅の花言葉は――



— 変わらない友情。

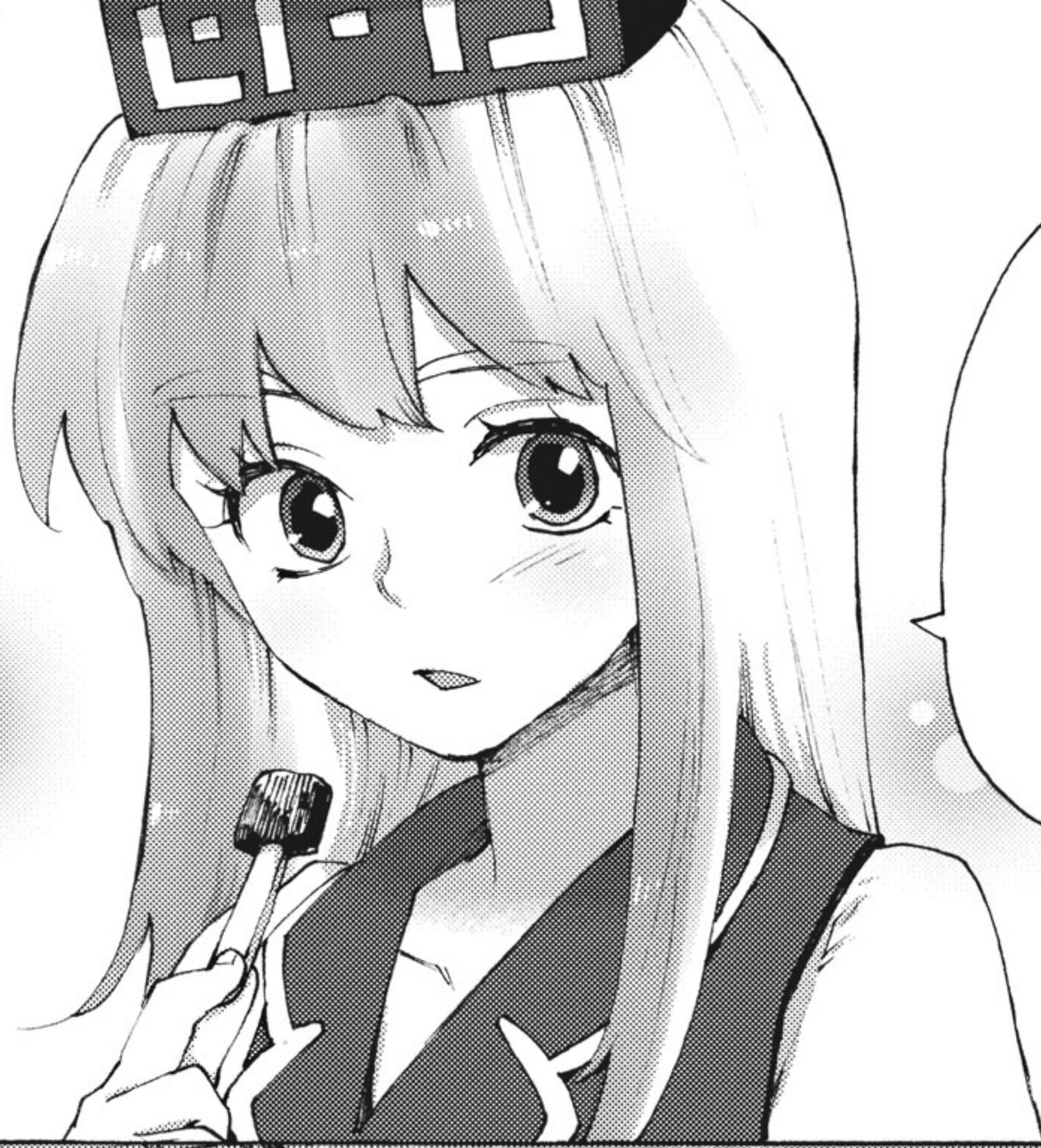


蓮子には言わないけれど。

まあ



いつか会えたら



形を覚えられない
茶菓子？



この間先代の日記を
読み返していて……

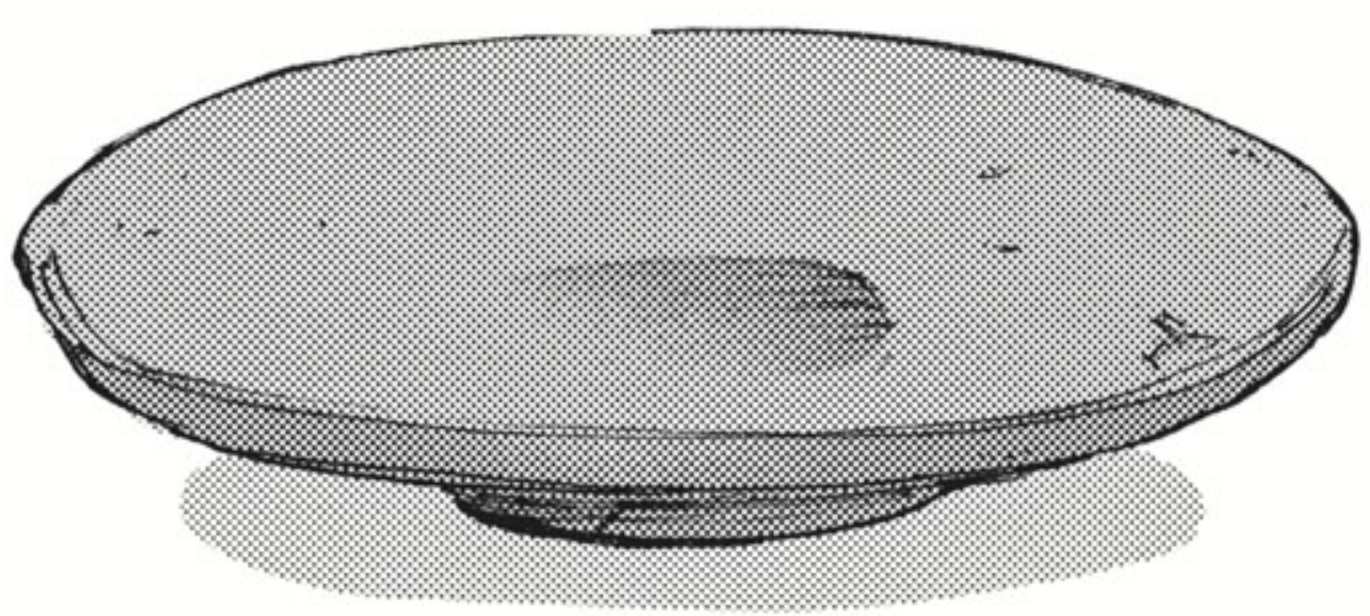


変な文章を
見つけたんだ





――味は覚えて
いるのだけれど
どんな形だったか
すっかり忘れてしまった





御阿礼の子は

一度見たものは
忘れない



不思議な話だな

うちの文献を
あたってても
それらしきお菓子は
見当たらないし

だからこうして
慧音に聞きに来たんだ



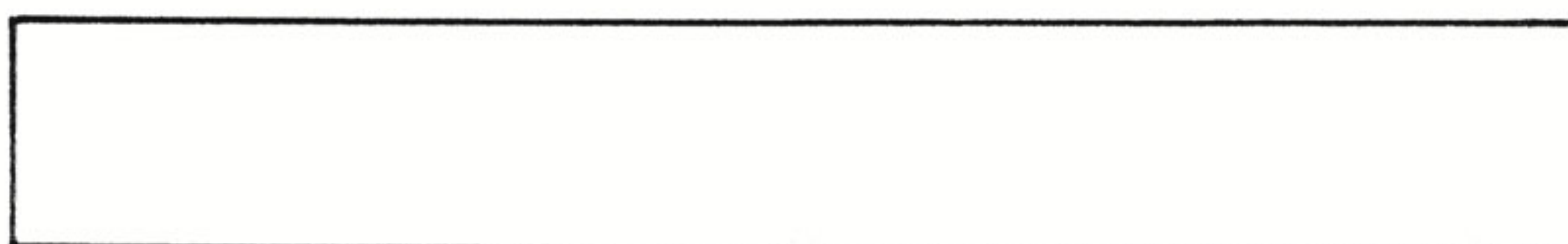
どーしても
食べてみたくなってさー
そのお菓子

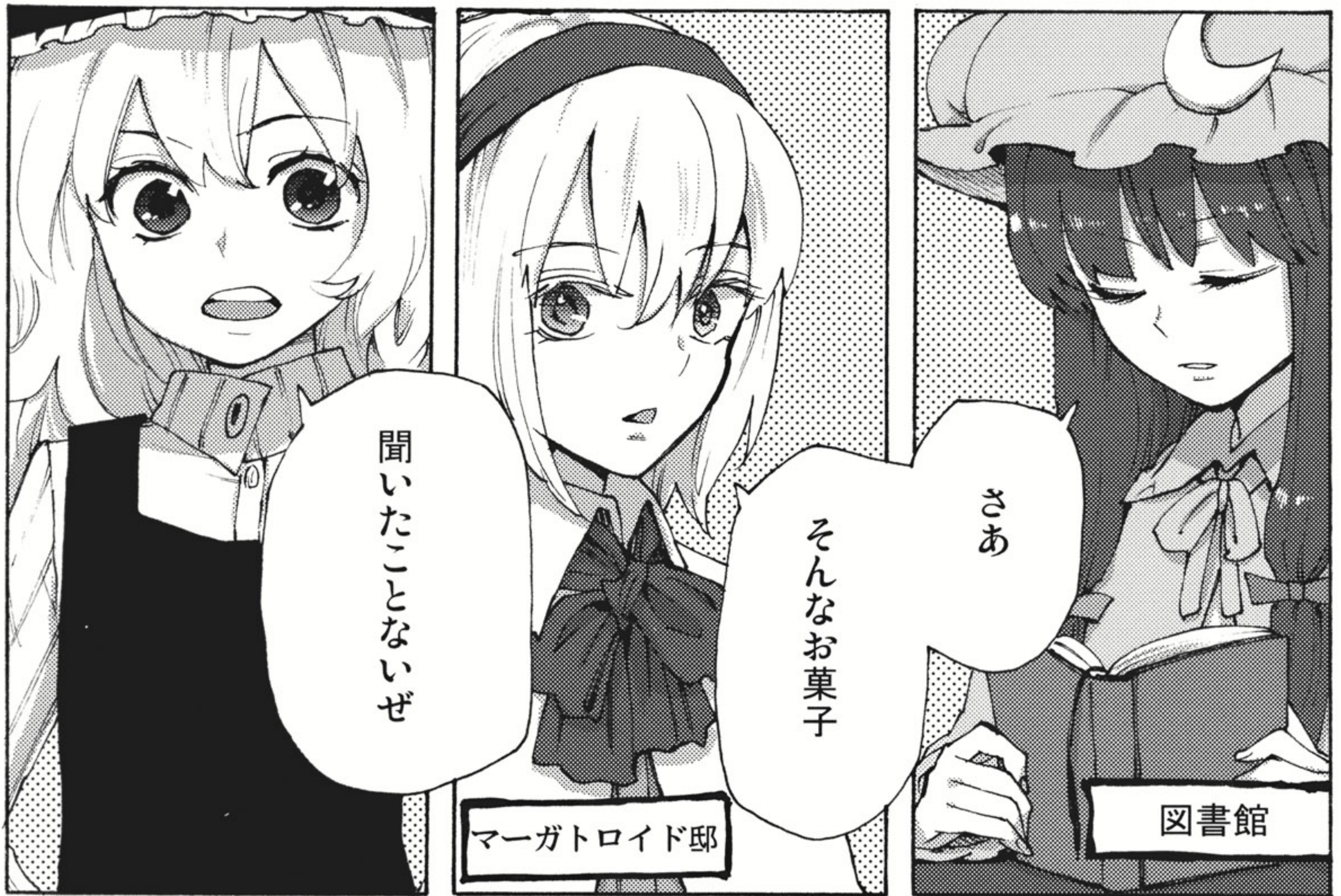
そ、そうか



すまんが
心当たりはないなあ

そうかー……
でも





おそろく……

食べた後に幻覚症状を起こす
薬が混入していたとか

稗田の娘がそんな
うさんくさいもん
食べるわけないだろう

なあ阿求

はは……

ここも
収穫ナシか……

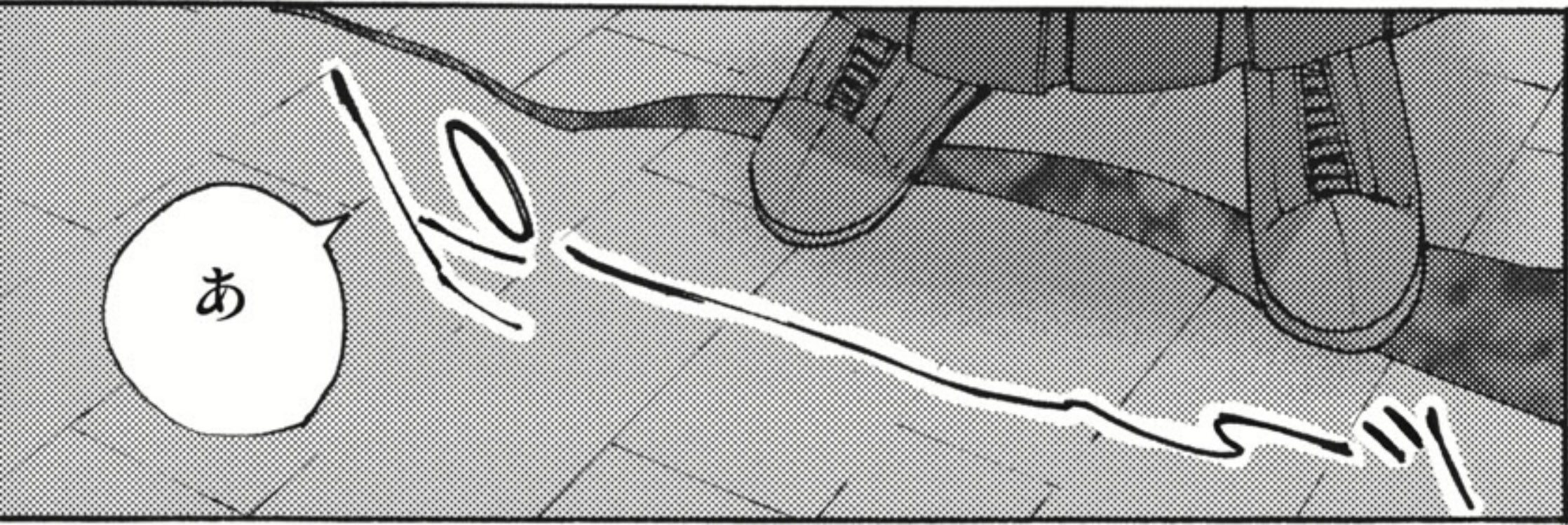
私それ

知ってるわ



ゲエーッ紫!

や

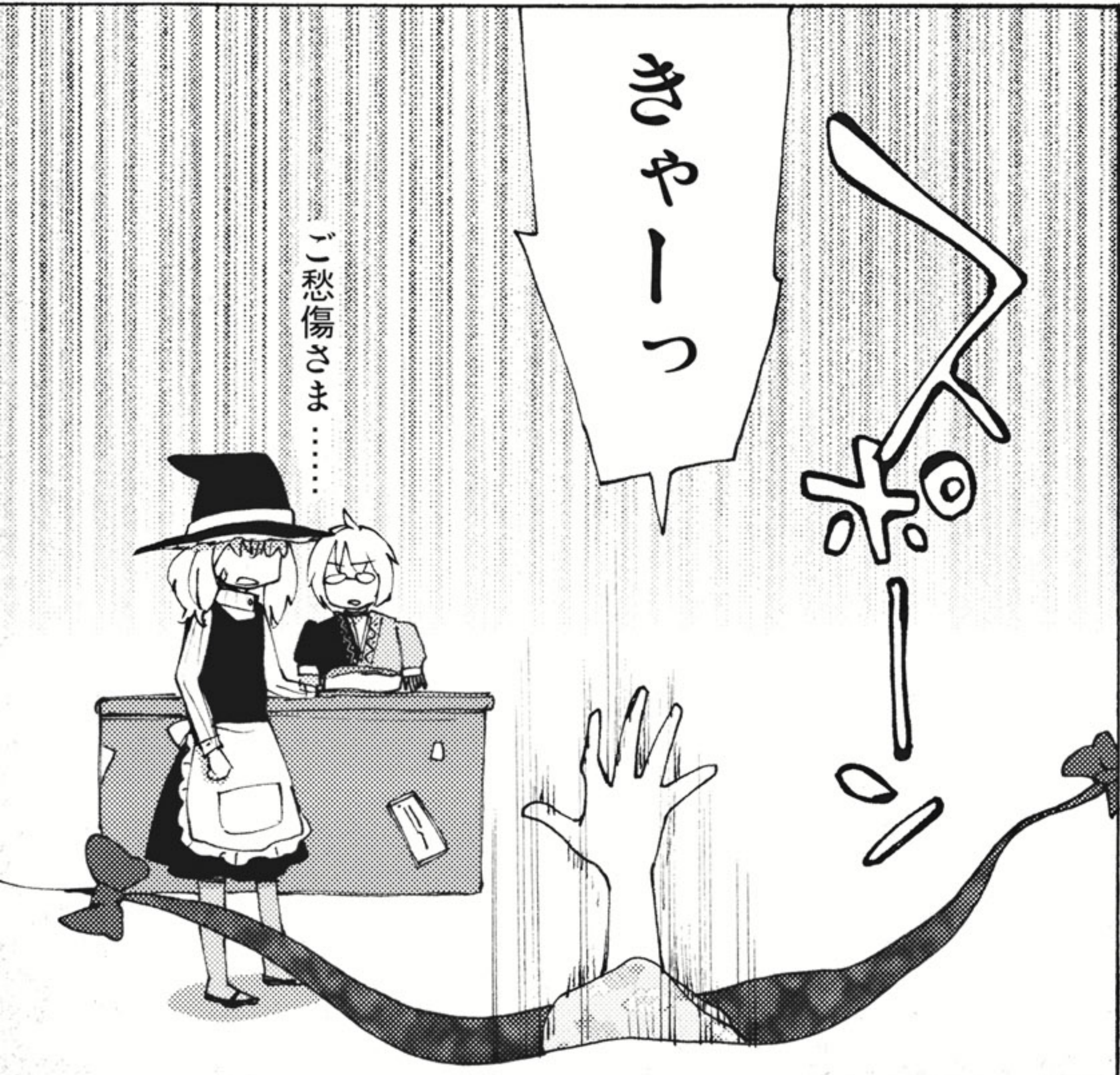


あ



実際に見たほうが
早いでしよう

え?



きやーッ

紫ーッ

「愁傷さま……」

白玉楼

ス
ー
ッ

こっ
こっは
……

ほらあっち

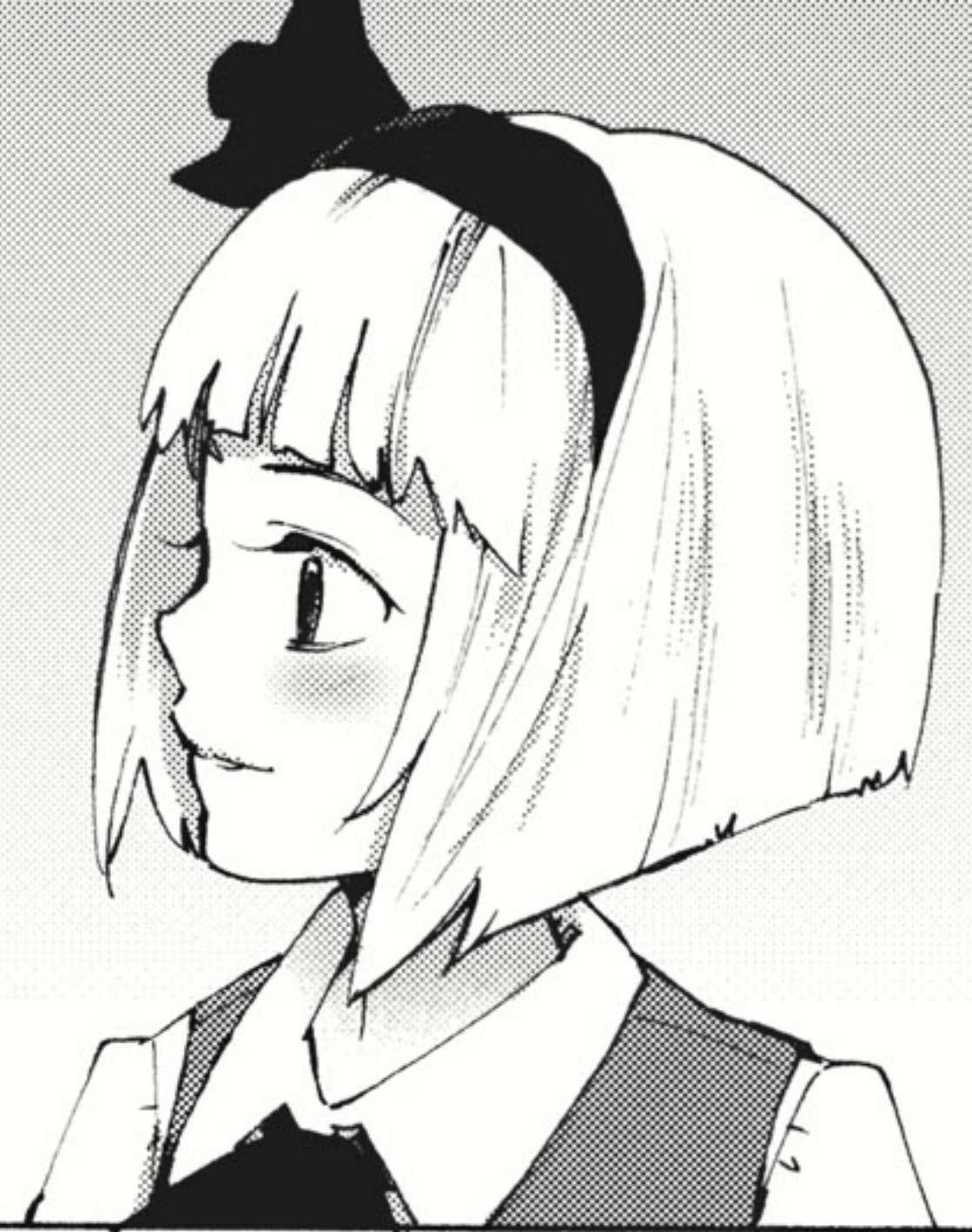
よく見て

あれは
……

妖夢が

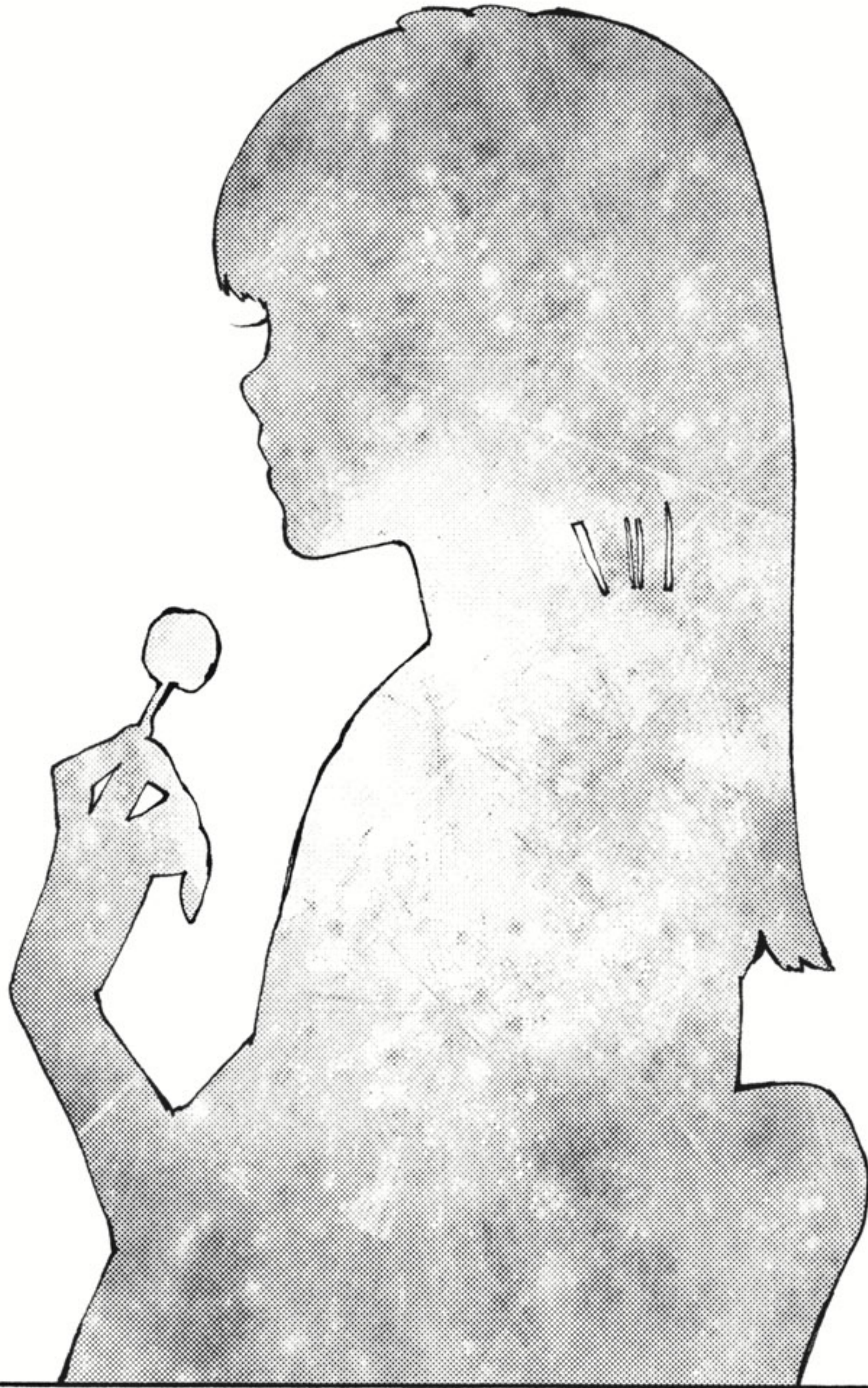
何を見ているかを

……
?





例のお菓子を食べたときの
私もきつと……



——それで結局
どうなったんだ？

稗田の屋敷

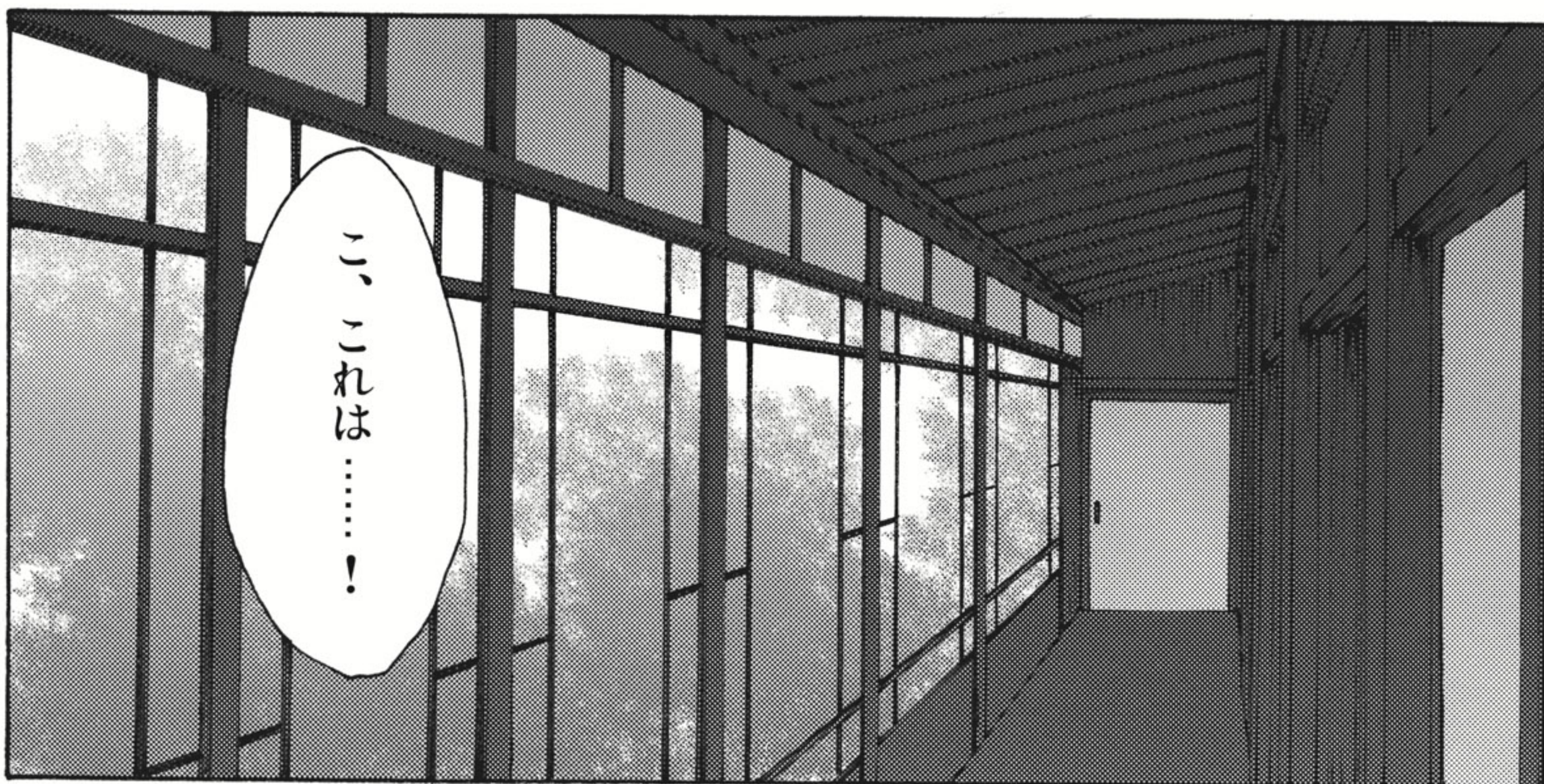



「——味は覚えて
いるけれど」

「どんな形だったかは
すっかり忘れてしまった」




こ、これは……！





形はすっかり
忘れてしまった

…… だけど
一緒に食べたあの人は



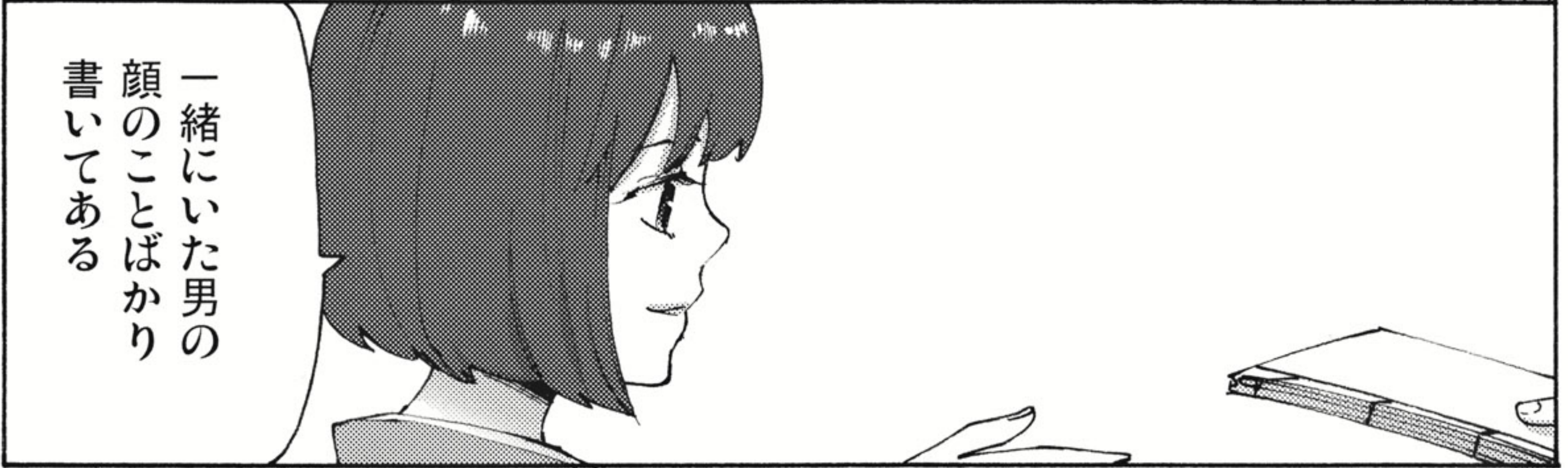
まつげの長さ

口元のほくろ

少し薄い唇が――



この日記には



一緒にいた男の
顔のことばかり
書いてある



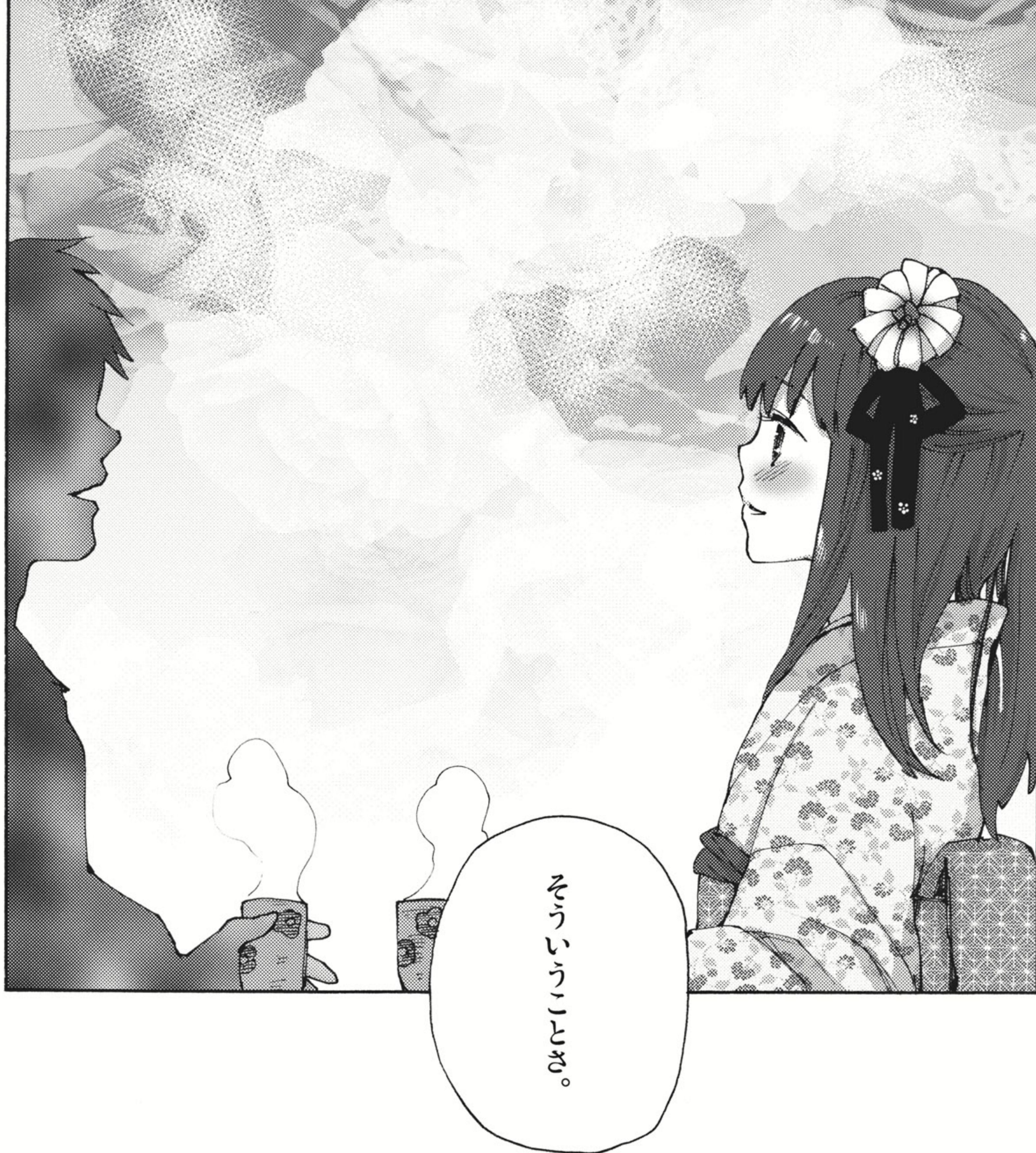
目の前のお菓子よりも
一緒に食べる相手の顔ばかり
見惚れて……

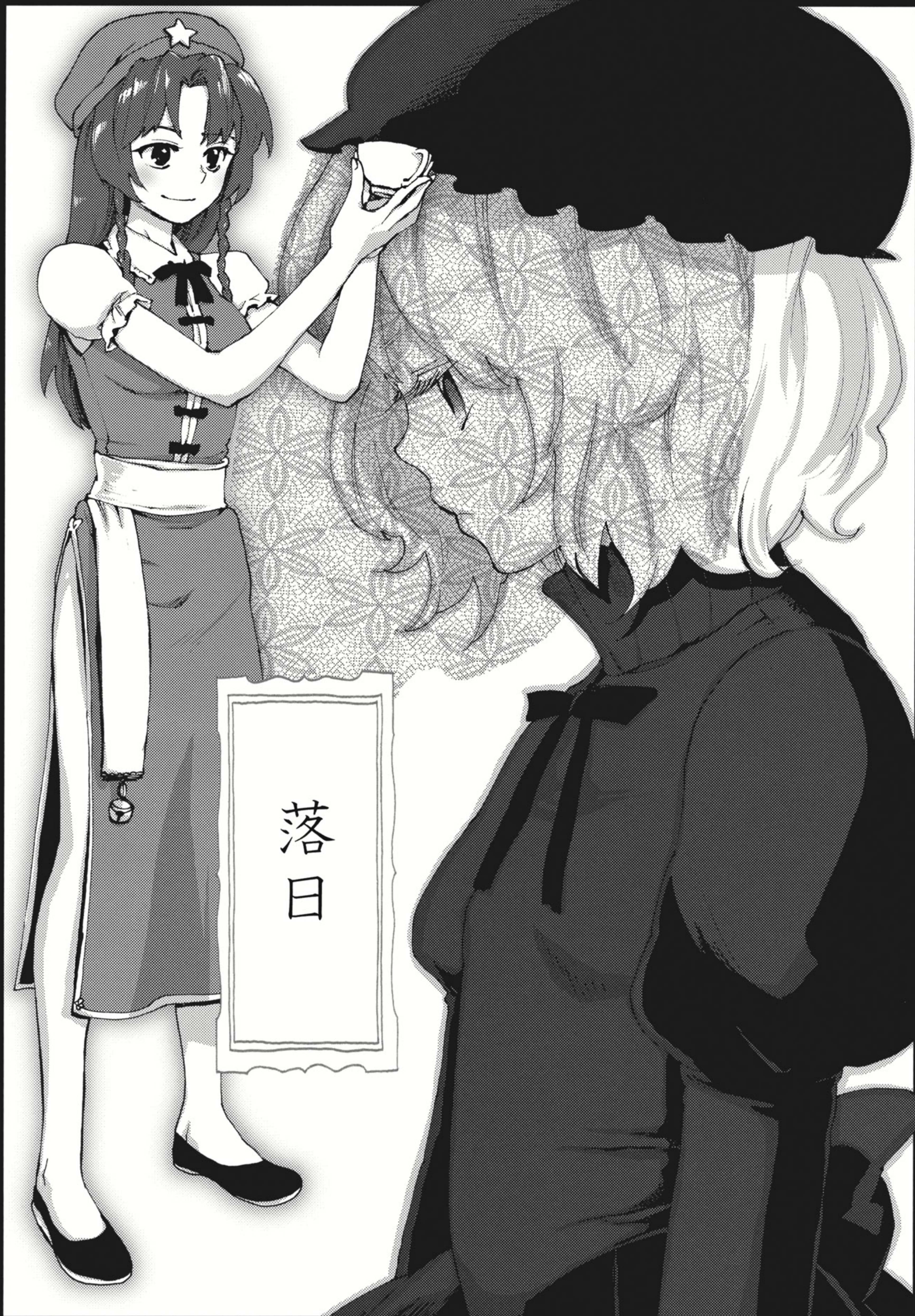
ああ……つまりは



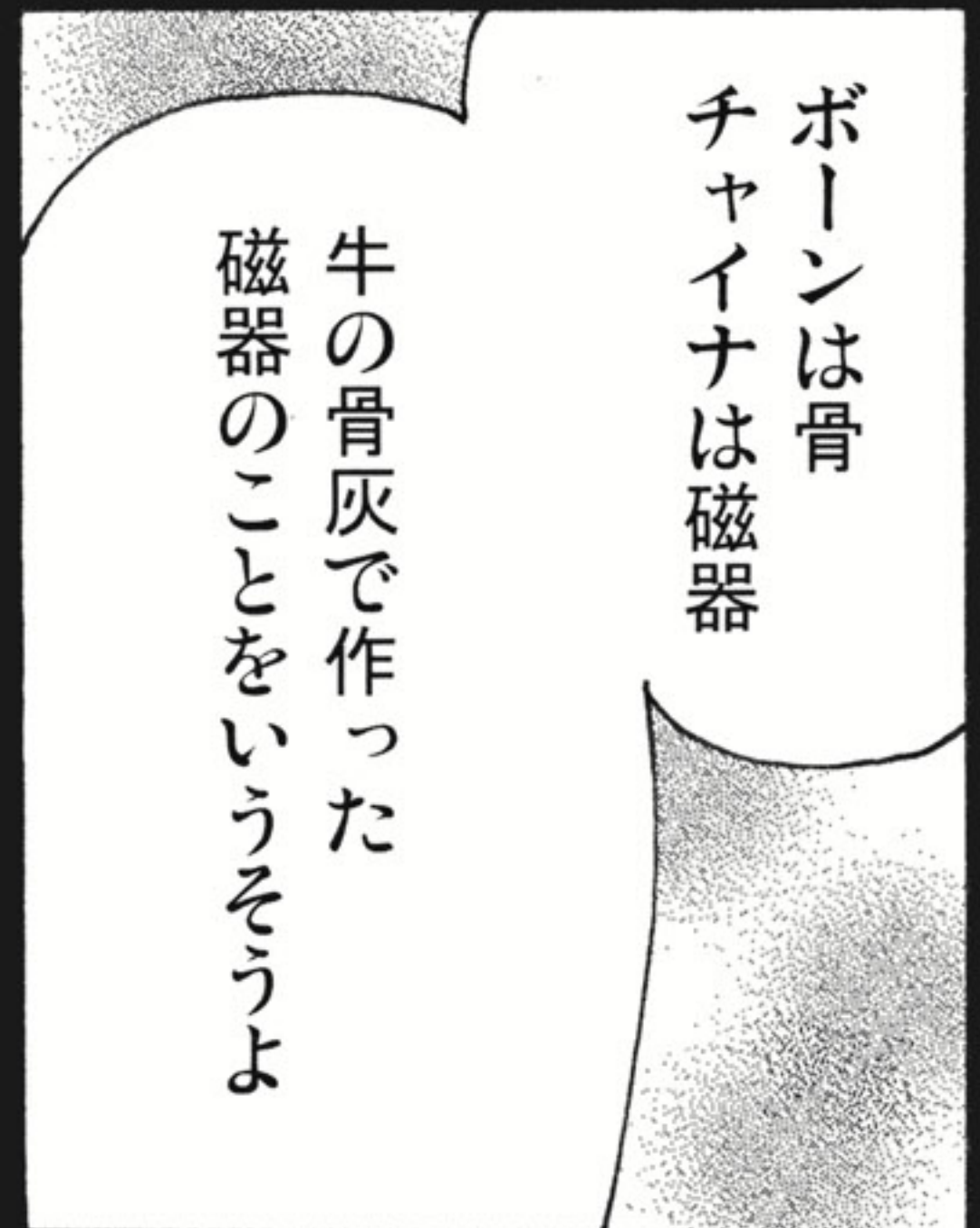
形を覚えられなかった
わけじゃなくて

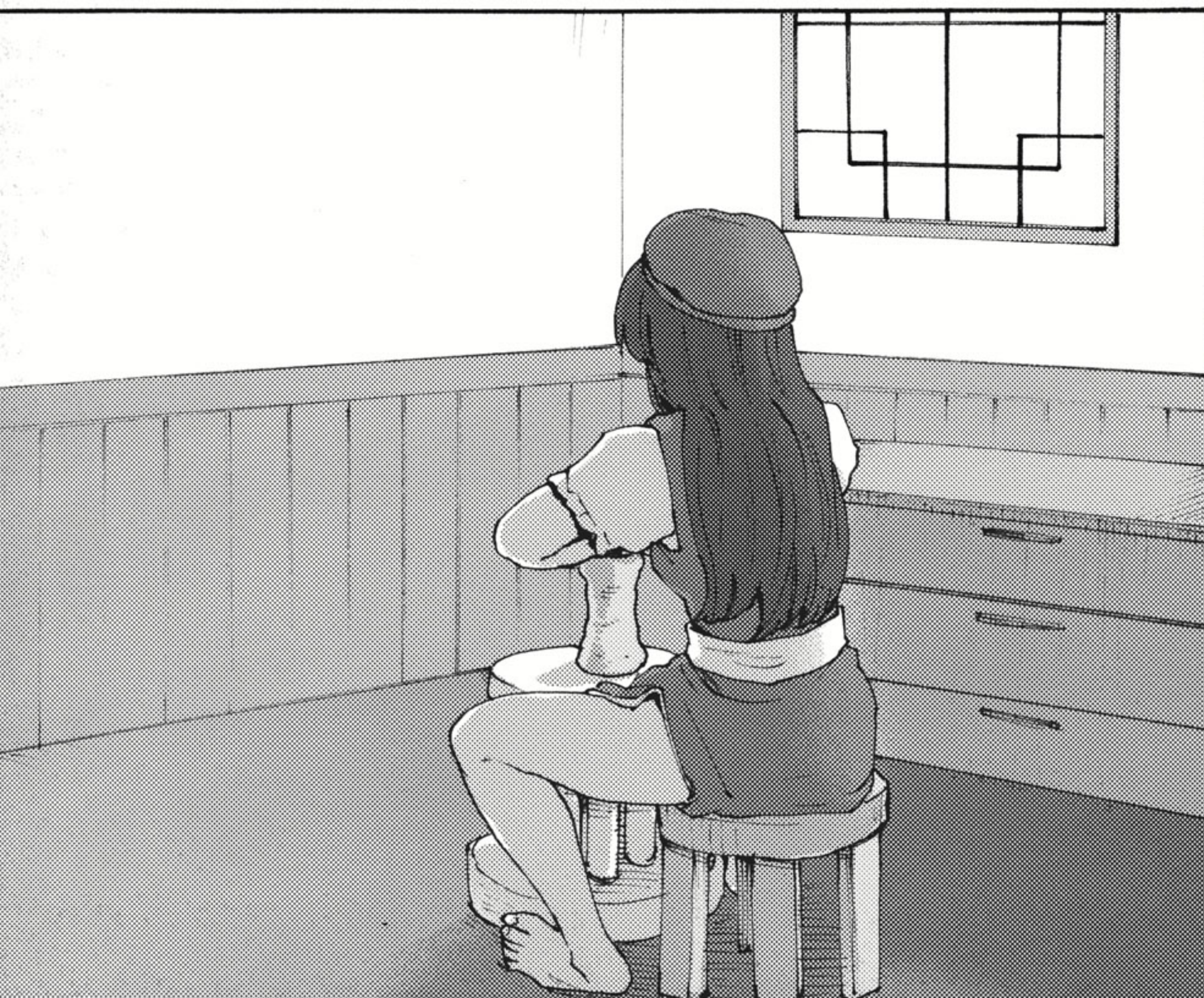
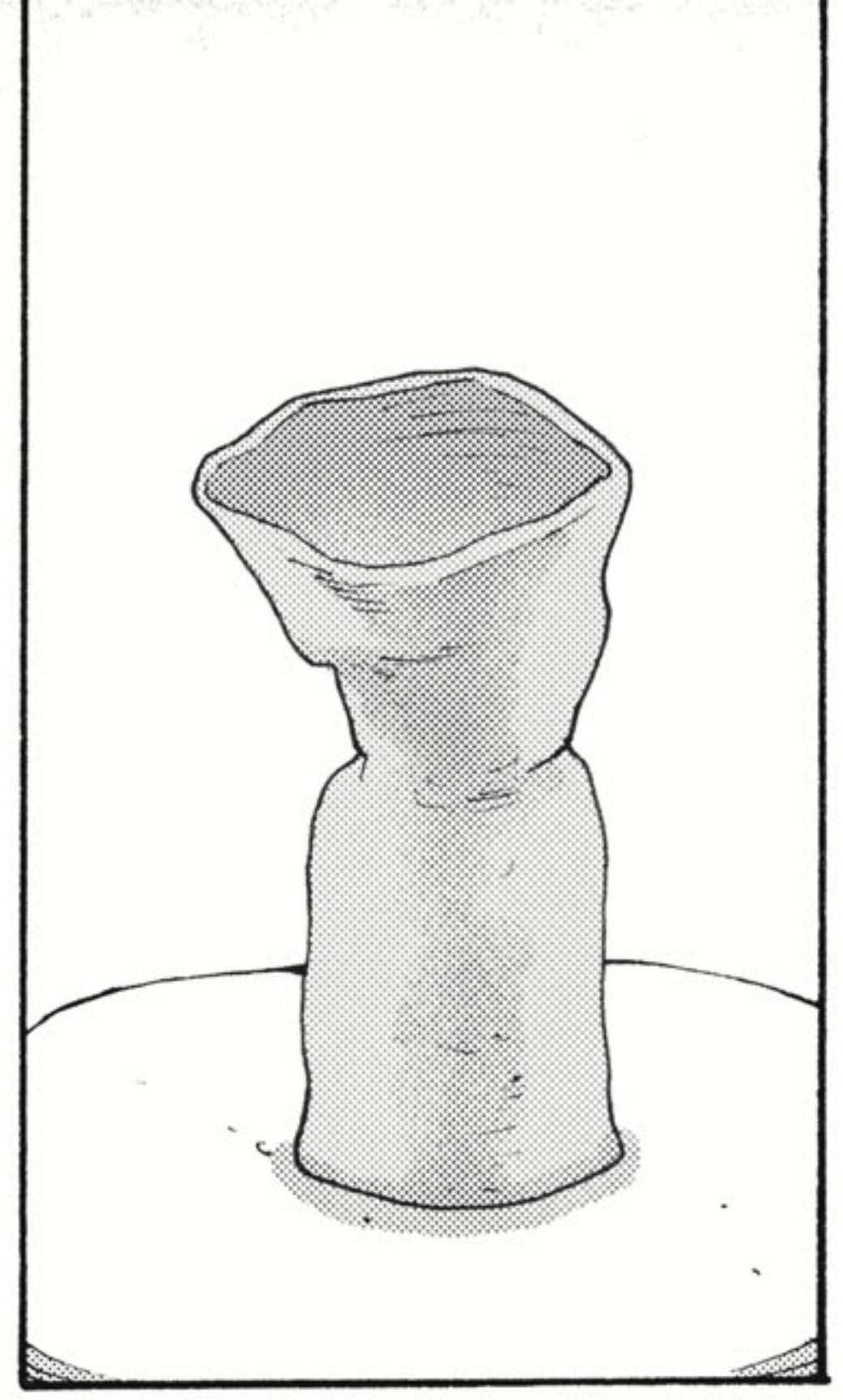
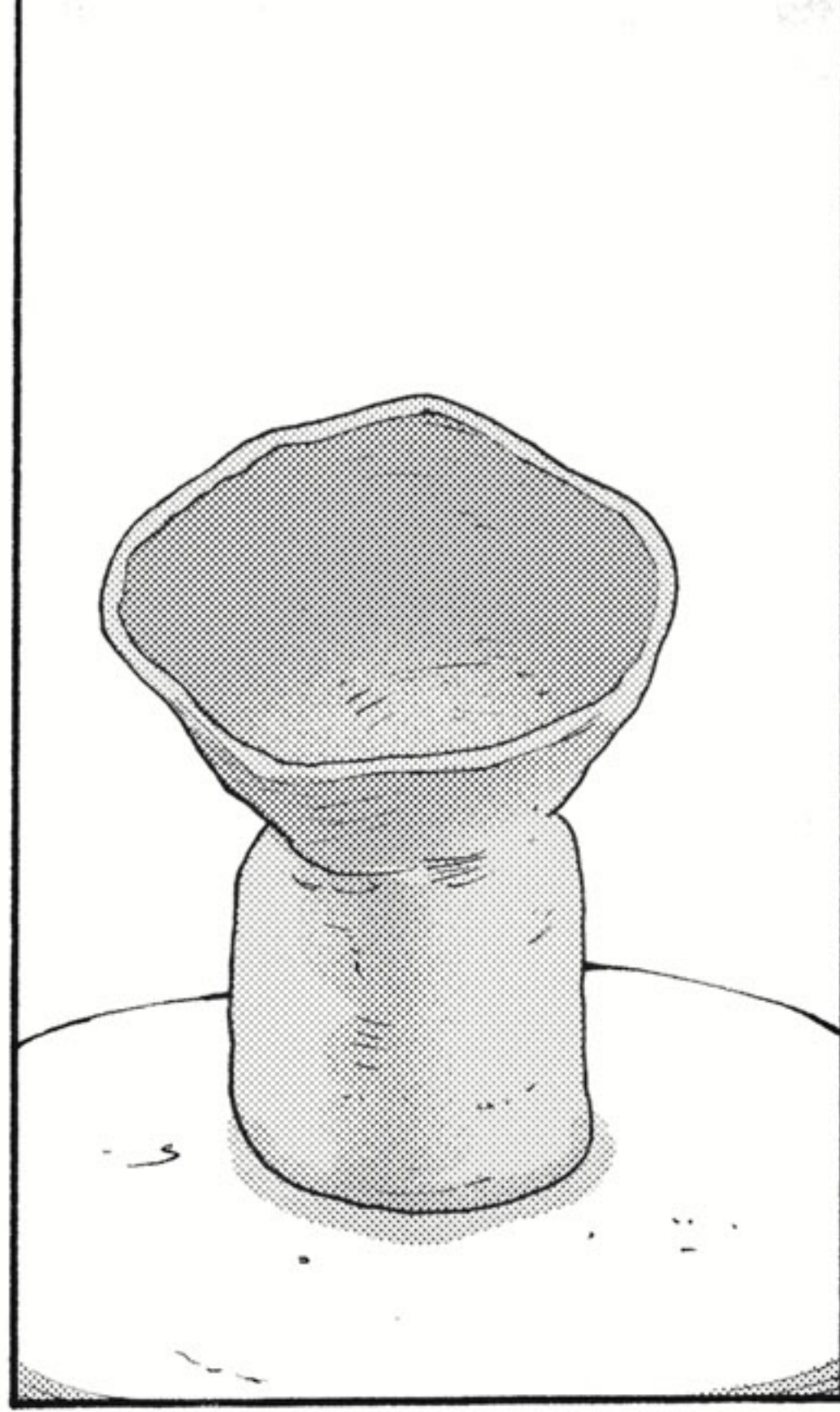
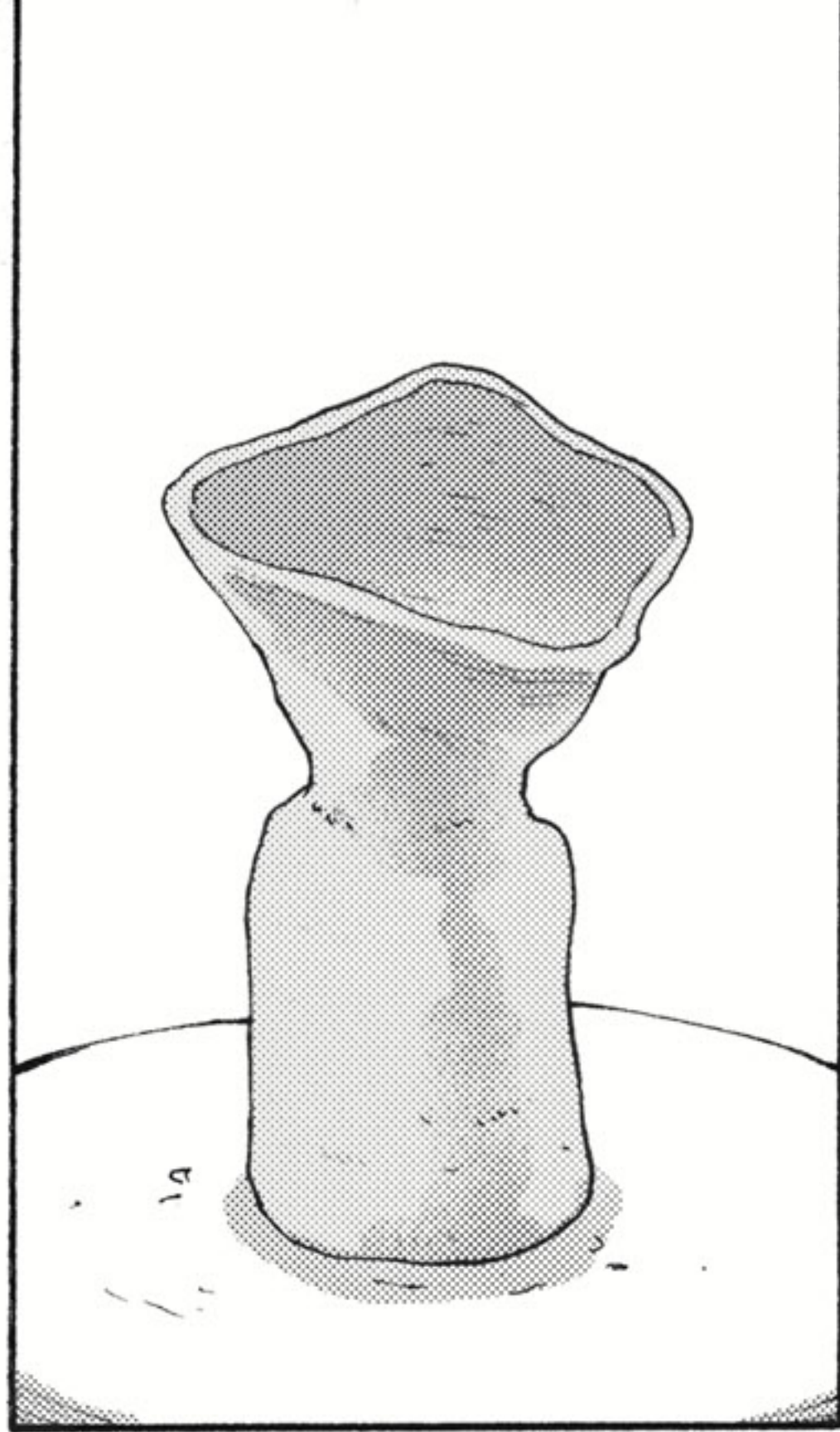
そもそもろくに見て
いなかったんじゃないか

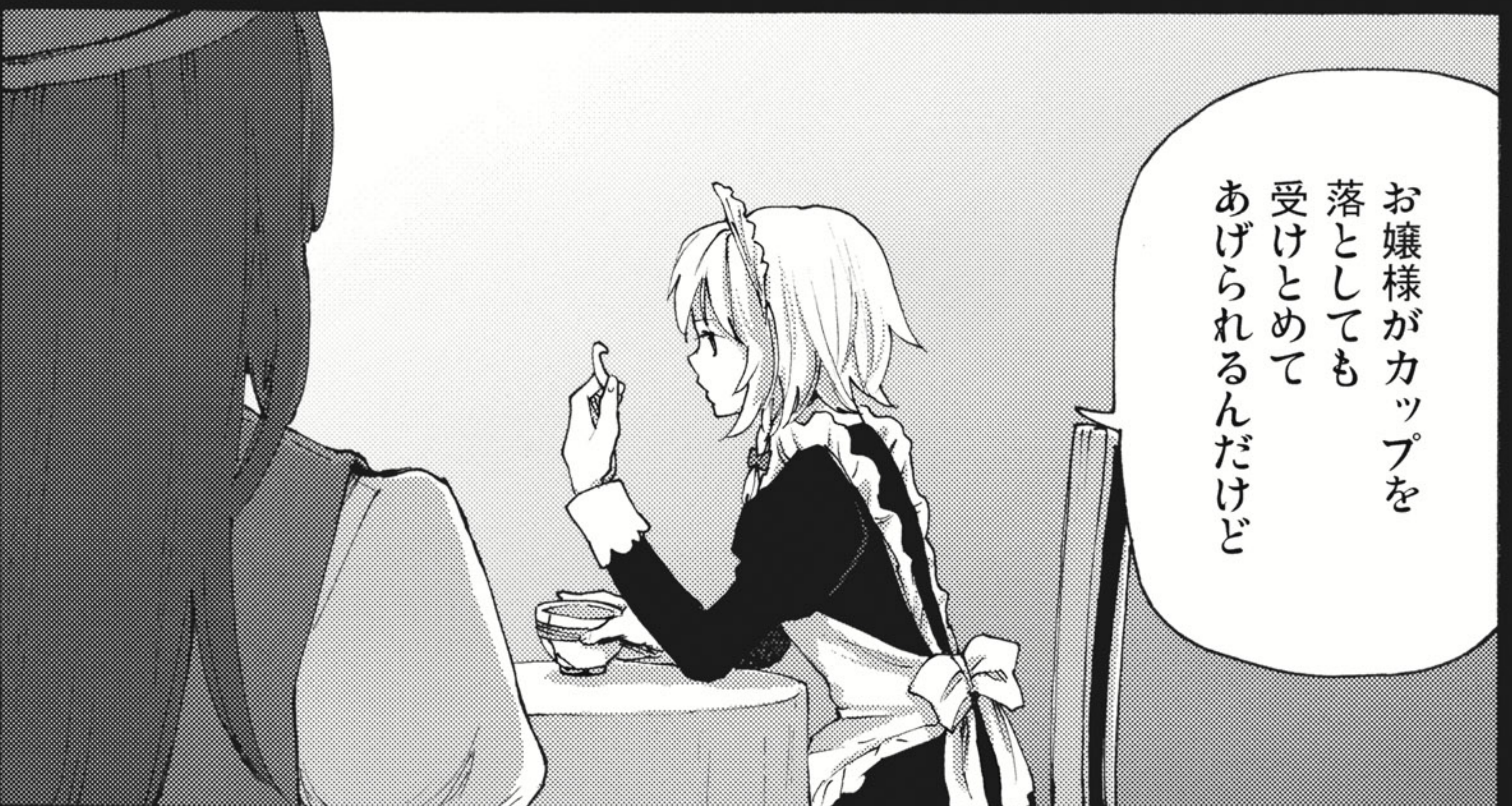
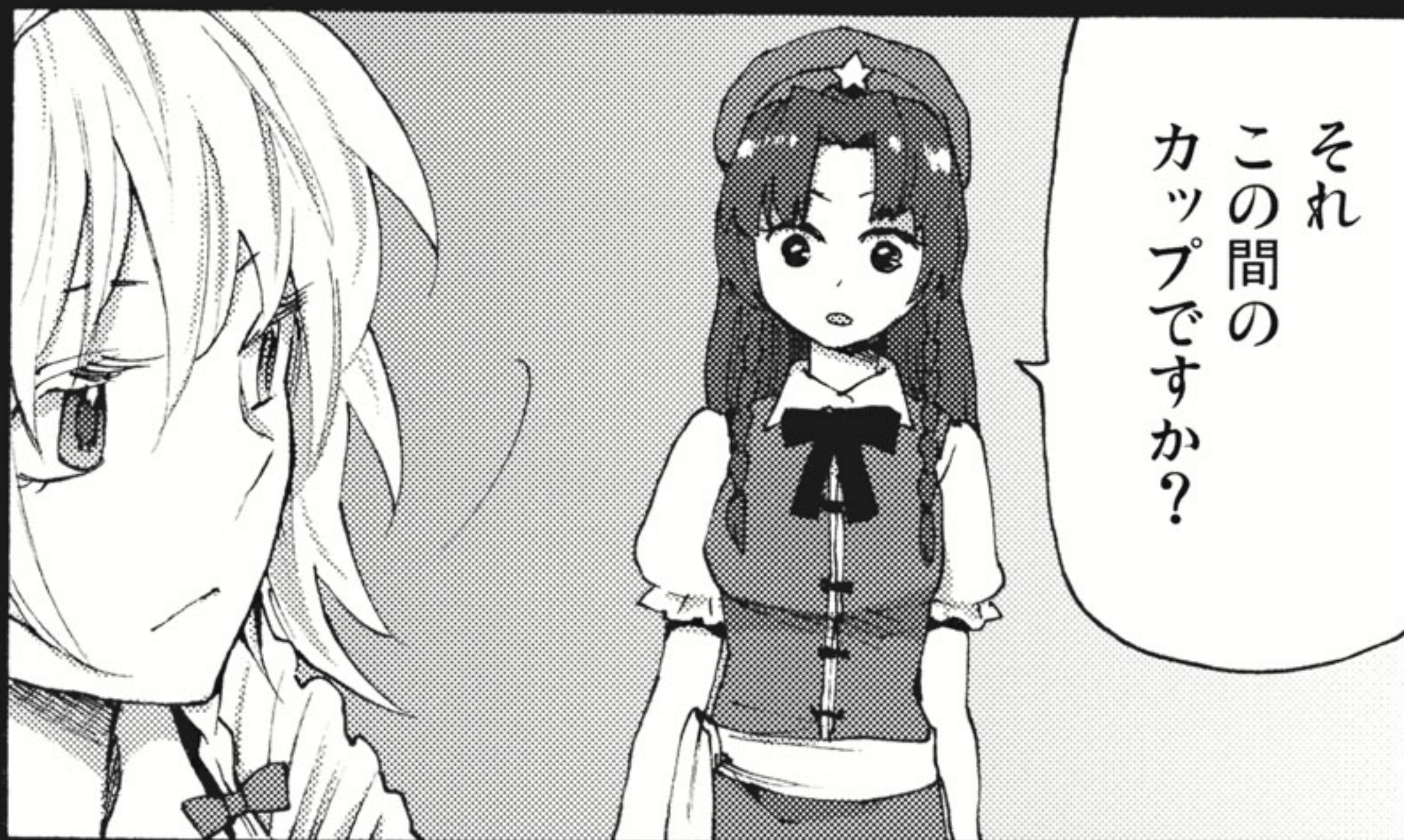


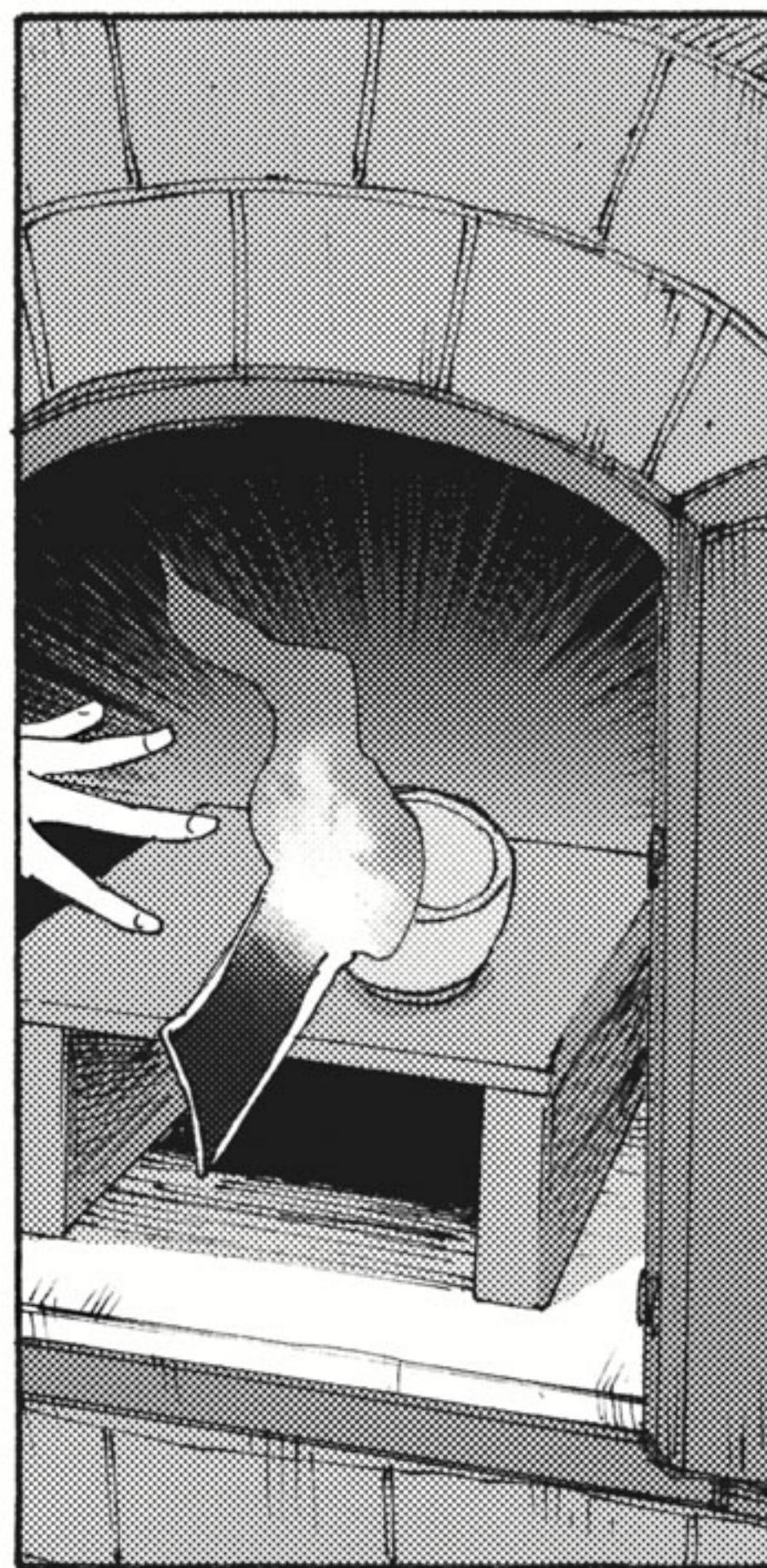
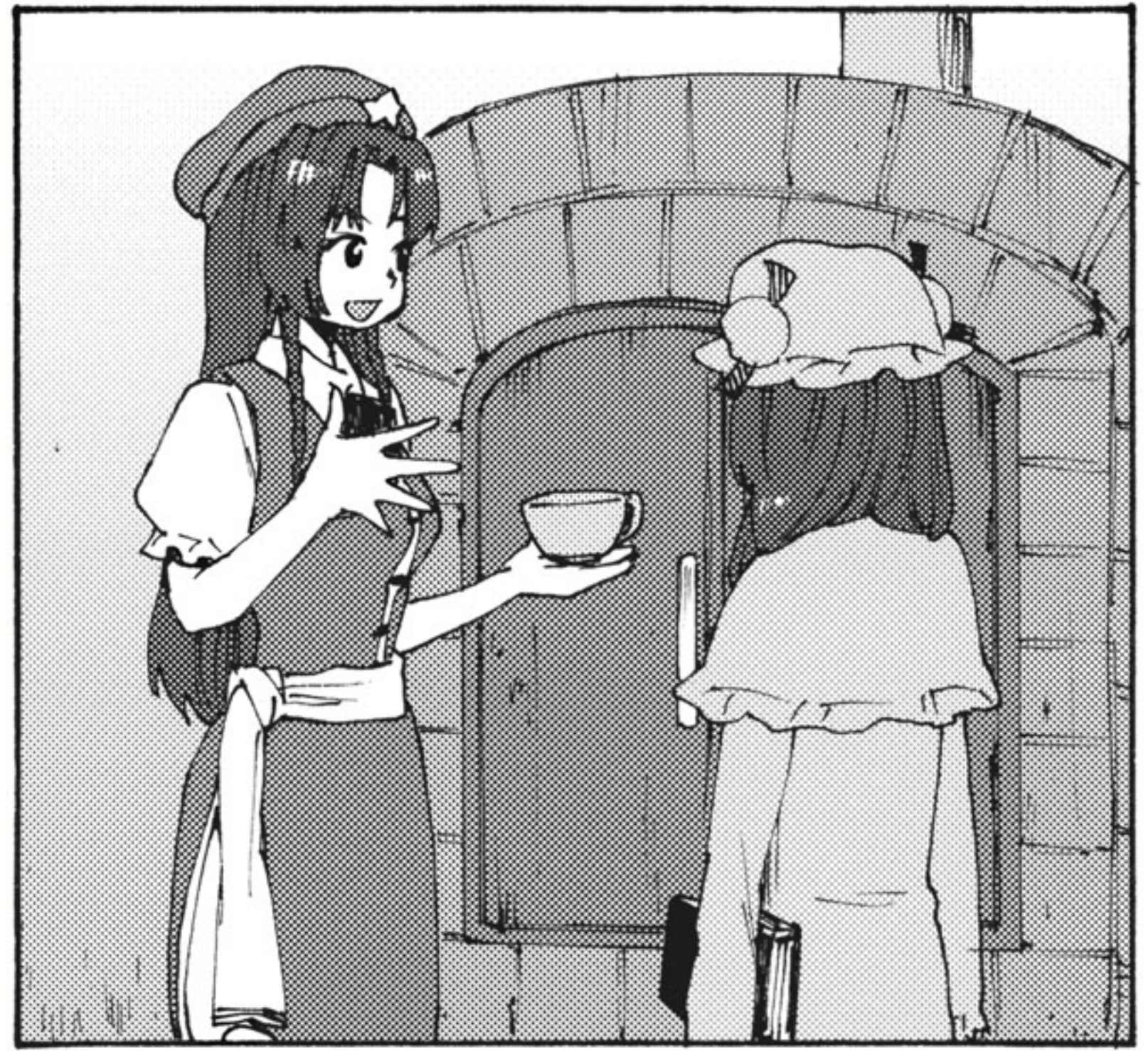
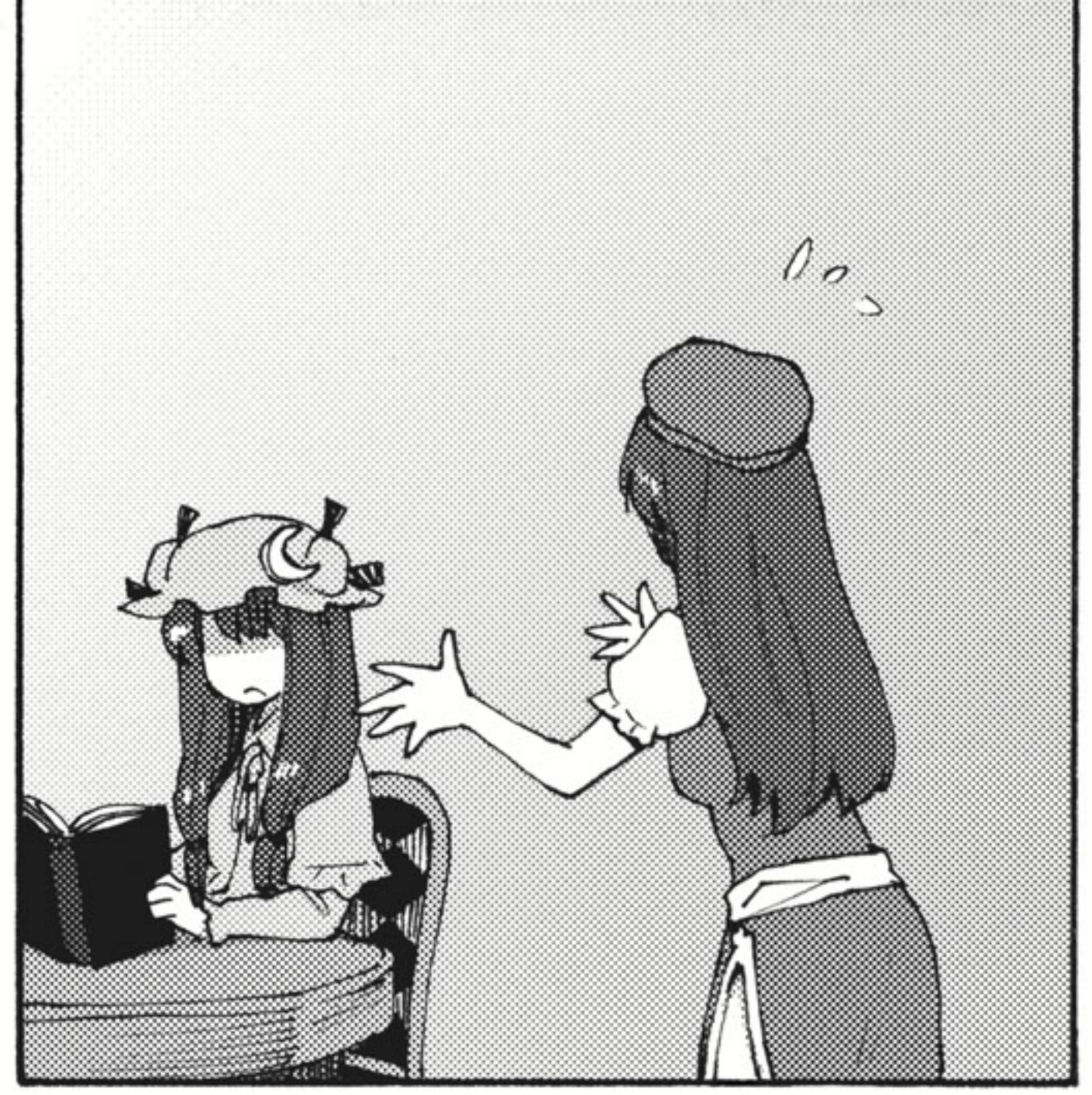


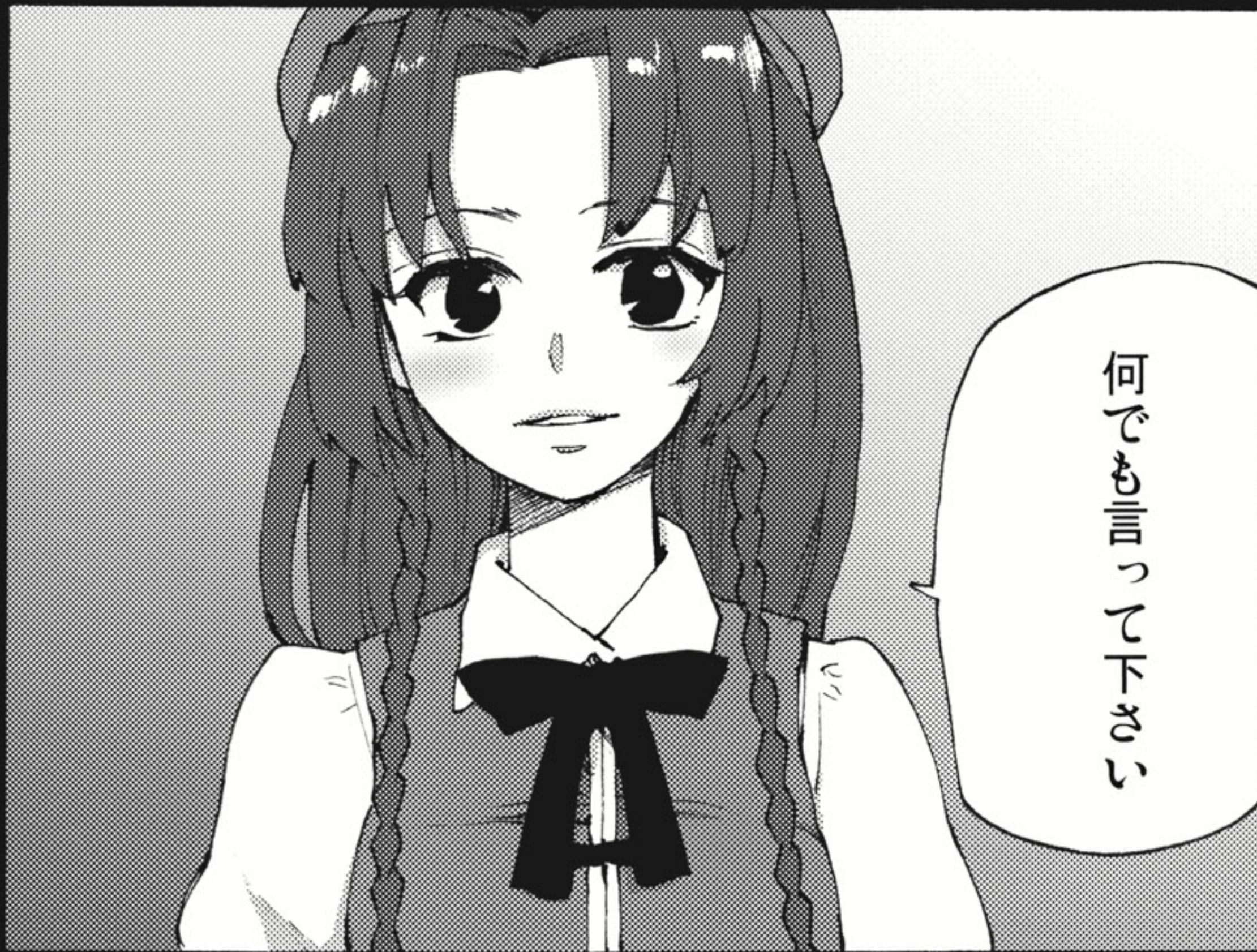
落日



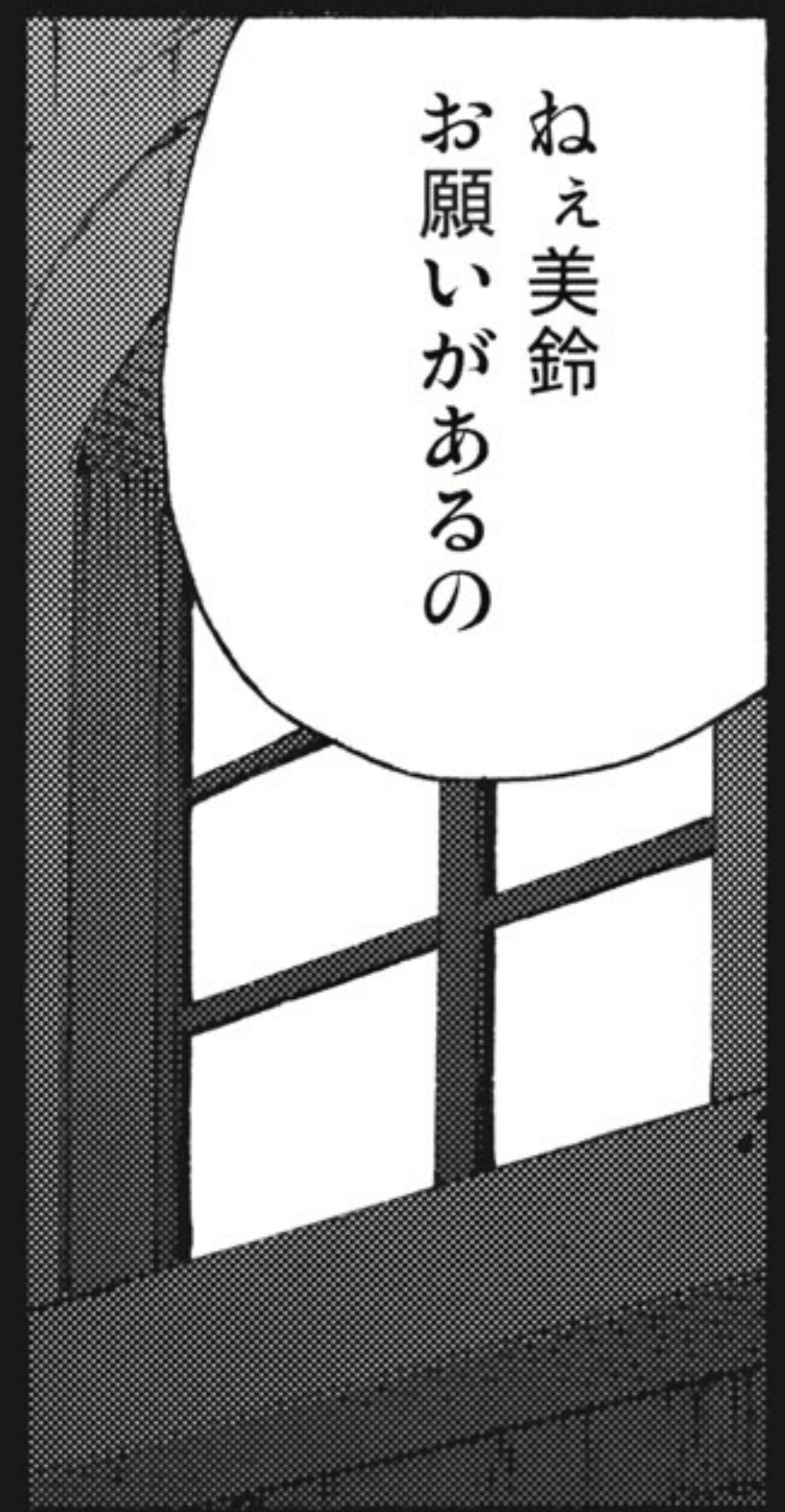








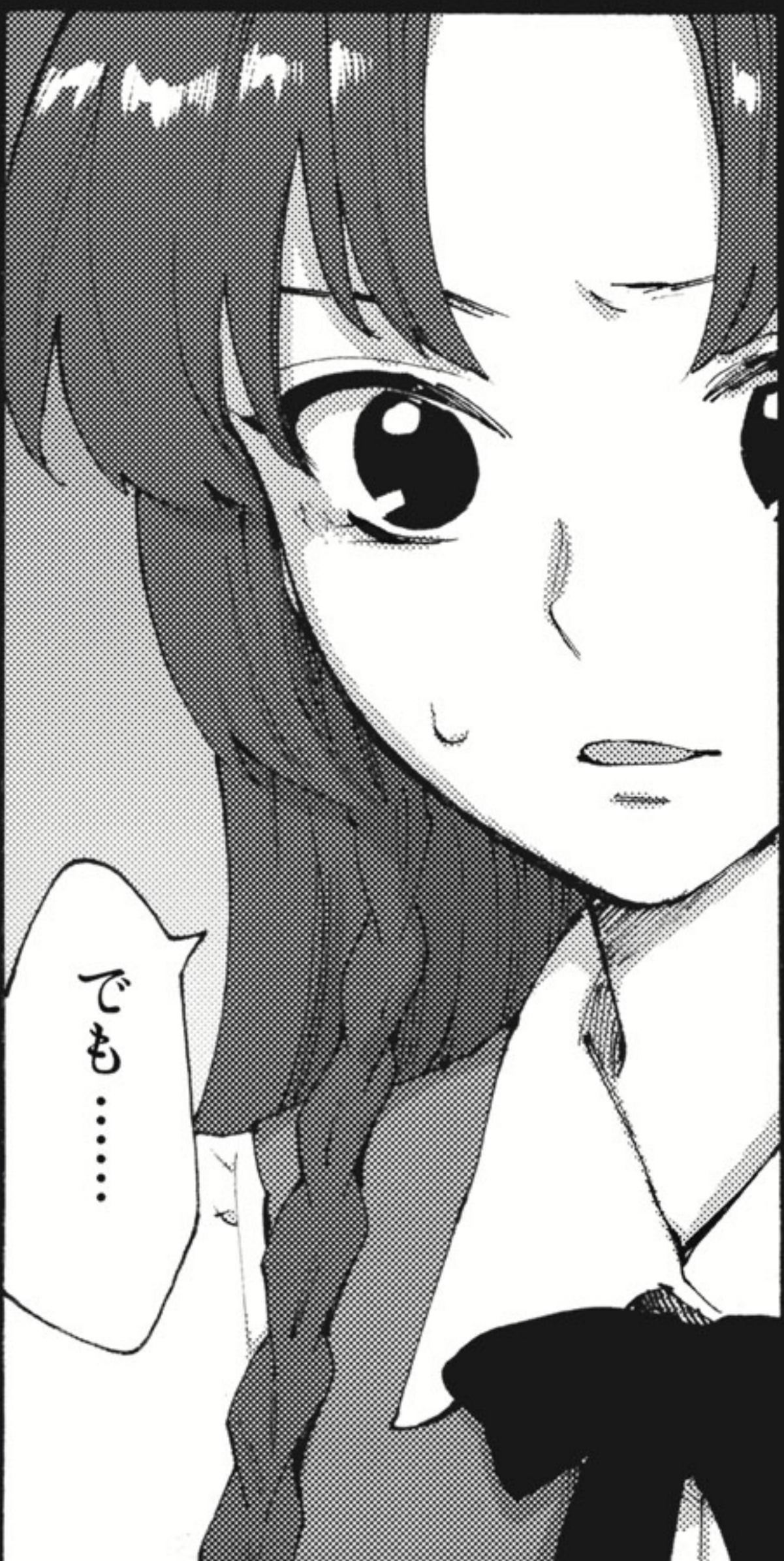
何でも言って下さる



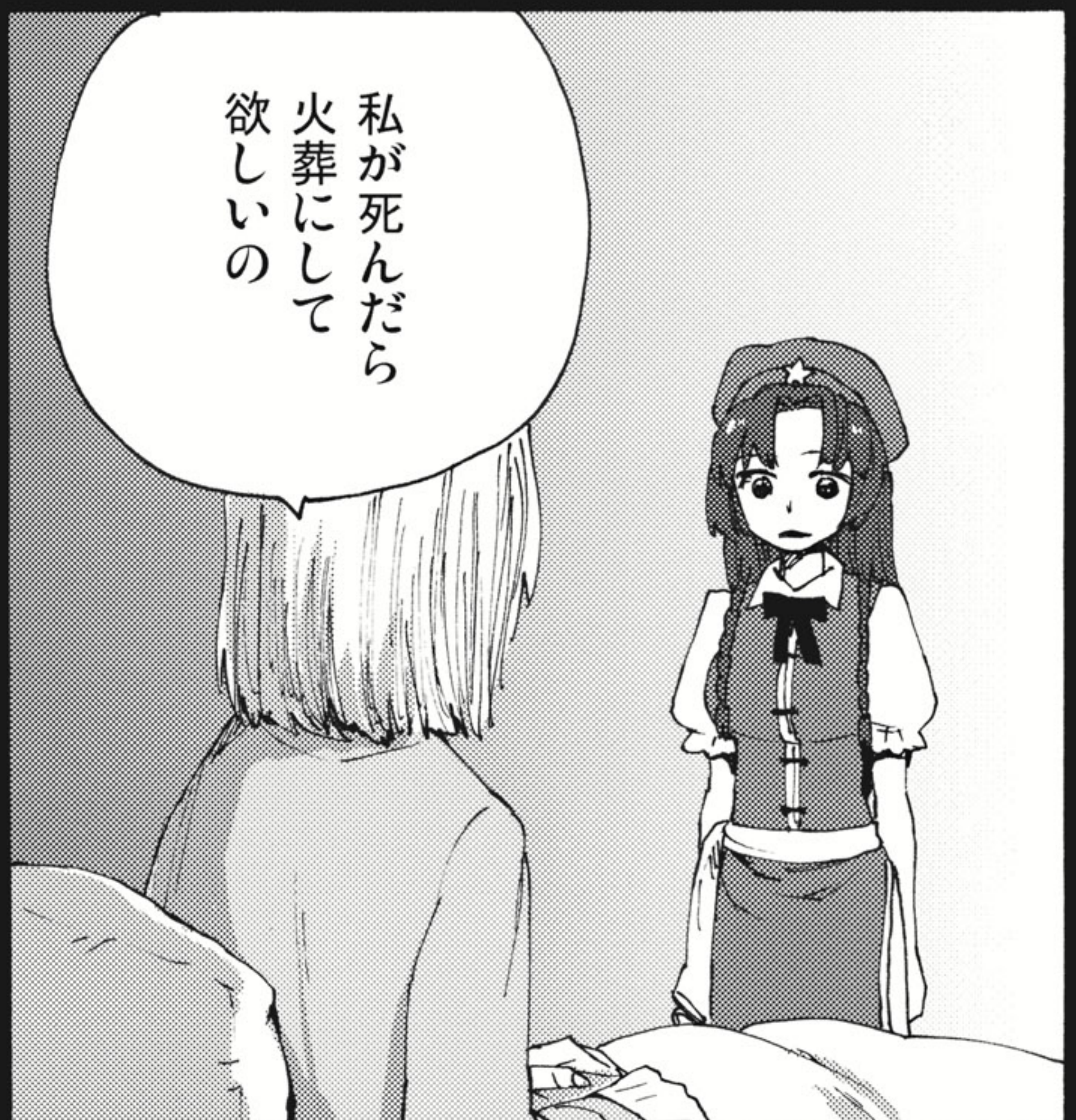
ねえ美鈴
お願いがあるの



お嬢様には
怒られるかも
しれないけれど



でも……



私が死んだら
火葬にして
欲しいの

土の中で静かに
朽ちてゆくのは
嫌なのよ

私の時を操作するのは
いつだって私で
ありたいの

.....
わかりました

ねえ美鈴

あの約束覚えてる？

死体になってもね





……美鈴の作った
カップ?

……
そういうことか
だから火葬に

咲夜は私のものだ
灰になったからと
いってそれは
変わらないぞ美鈴

わかっています
お嬢様

これで
こんなもので



何だと



「私といつも一緒」などと
言うつもりか
咲夜——！

違います



咲夜さんは……



そのカップを
私だと思えば——



私が
いなくなったら

屋敷中のカップが
お嬢様に割られてしまうわ



お嬢様も大切に扱ってくださるでしょう



あいつ……



着替えてくる



まったく
咲夜らしいわ



お前はその間に
紅茶でも
入れておけ

咲夜さんのようには
淹れられません

当たり前だ
バカ



解説

◎昨日珍しく、蓮子と私は喧嘩した。

2010年11月に開催された秘封倶楽部オンリーイベント、境界から視えた外界にて頒布したものです。工芸茶というものがあまして、コップやポットに入れてお湯を注ぐと花が開く美しいお茶です。お茶をネタに漫画を描こうと決めた際、まず思いついたのがこれでした。

工芸茶は茶器とセットでプレゼントするととても喜ばれますよ。母の日等に是非。

◎いつか会えたら

2011年2月に開催された稗田阿求オンリーイベント、求代目の紅茶会にて頒布したものです。

茶葉を描いたので次は茶菓子です。茶菓子と言っても姿形は出てきませんが。

阿求の能力をうまいこと話に絡ませられないかなあと考えてこういう話になりました。

うまいこと描けたかどうかわかりませんが。

阿求と恋というテーマは以前、東方で初めて出した個人誌の別れ霜でも描きました。

阿求本人が恋をする話を未だ描けてはいませんが、恋をした阿求にも、いつか会えたら。

◎落日

タイトルは東京事変の曲から。

茶器の話です。ボンチャイナは牛の骨でないとうまく作れないのだそうです。

なので、咲夜分はほんの少しだけ含まれています。

登場人物がずっと喪服を着続けている、というネタは私が一番好きな漫画から持ってきています。

ここまで読んでくださってありがとうございました。

またどこかのイベントでお会いできたらと思います。

奥付

『少女たちのアフタヌーンティー』

発行 二〇一一年三月十三日

於 博麗神社例大祭八

著 くま（赤色バニラ）

表紙デザイン きずな（ロマンチックメロウ）

印刷 パワープリント

原作 上海アリス幻楽団

赤色バニラ

<http://spring28.sakura.ne.jp/crimsonvanilla/>



赤色パワ